



「大川の駅」全体計画

令和3年4月
大川市



目 次

1.	はじめに	1
1.1	背景と目的	1
2.	現況把握	2
2.1	大川市の現況	2
	(1) 立地特性	2
	(2) 立地状況	3
	(3) 地域資源	5
	(4) 大川市を取り巻く状況	10
2.2	整備予定地の状況	12
	(1) 整備想定区域の状況	12
	(2) 周辺の土地利用状況	13
	(3) 周辺の道路状況	14
	(4) 法規制の状況	15
	(5) 防災の状況	17
3.	コンセプト	18
3.1	「大川の駅」の位置づけ（「大川の駅」に求められていること）	18
3.2	基本理念	19
	(1) 基本理念	19
	(2) 「大川の駅」の構成	20
3.3	事業コンセプト	21
	(1) 事業コンセプト及び方向性	21
	(2) 事業プランの検討	23
	(3) 広域連携のあり方	24
3.4	関連施設と災害時の活用	25
	(1) 関連施設（民間事業誘致）	25
	(2) 災害時の活用	25
3.5	全体イメージ図	26
4.	施設計画	27
4.1	基本的なゾーニング	27
4.2	導入機能	28
4.3	施設規模	29
4.4	配置計画	30
	(1) 整備予定地	30
	(2) 施設の配置計画	31
4.5	イメージパース	33
5.	事業スケジュール	34
5.1	開業までのスケジュール	34
5.2	今後の検討課題	34

1. はじめに

1.1 背景と目的

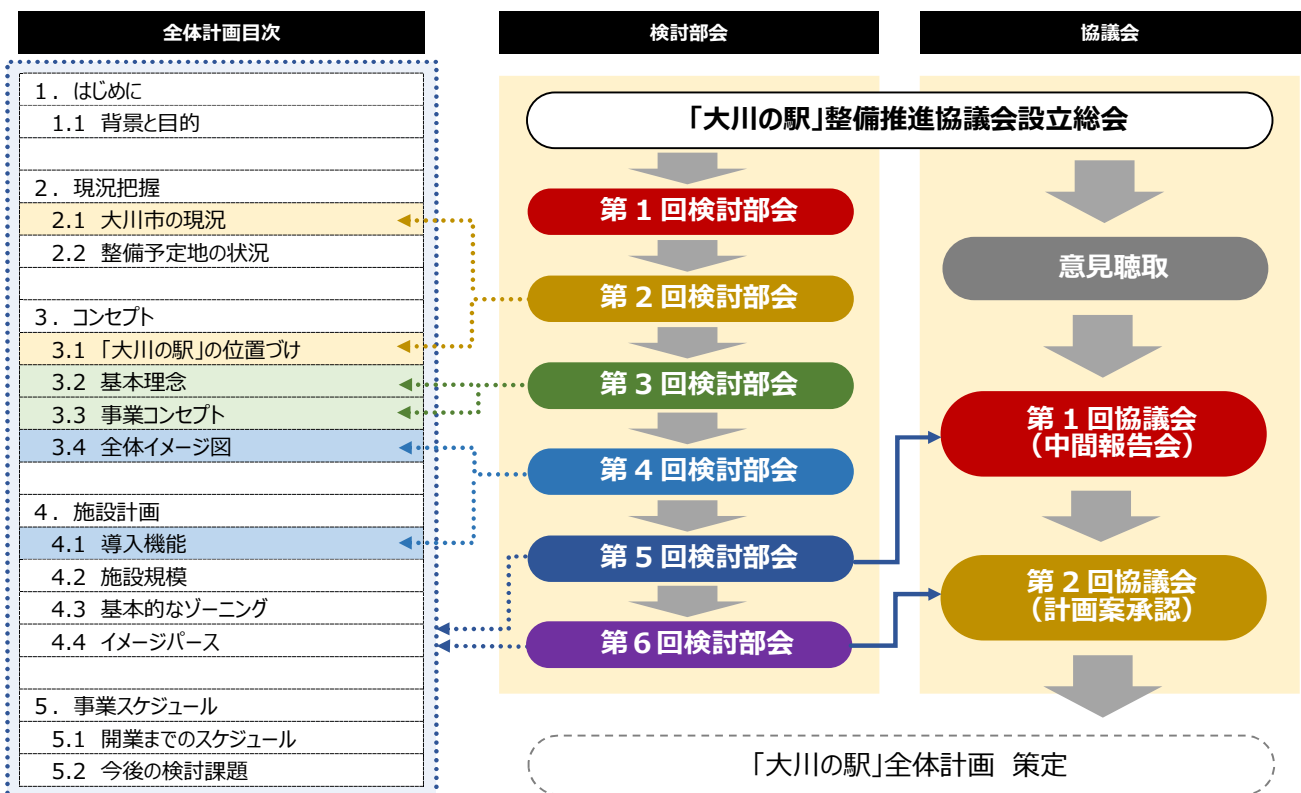
大川市では、「環有明海地域[※]」において、有明海沿岸道路、九州佐賀国際空港、三池港といった重要なインフラが整いつつある今、産業・観光振興を柱に、関係自治体との連携を強化し、この地域の一体的な経済的浮揚を図ることにより、福岡都市圏、北九州都市圏に匹敵する経済圏域を形成することを目指しており、この目標を実現する手段の一つが、「大川の駅」構想です。

この構想は、「道の駅」と「川の駅」の機能を併せ持つ、大川市が誇るインテリア産業や「環有明海地域」のものづくりに視点を当てた広域的な産業・観光振興に資する拠点の整備構想です。

「大川の駅」全体計画は、「大川の駅」整備推進協議会の検討を経て、大川市が策定するものです。本計画の策定にあたっては、同協議会検討部会の意見を踏まえ、「大川の駅」がどのような施設であるべきか、必要性・目指す姿を明確にするため、まず、基本理念や事業コンセプトを設定し、次に事業コンセプトを4つの観点から整理し、それぞれの方向性を示し、「大川の駅」が全体として一体的に機能するように事業プランを検討しました。

さらに、今後の「大川の駅」整備について検討するうえでの参考とするため、導入機能や施設規模を想定し、ゾーニングの考え方やイメージパスを作成することで視覚的なイメージの共有を図っています。

また、「大川の駅」整備予定地及び周辺の状況について現況を把握し、実現に向けて、諸課題の整理や開駅までのスケジュール作成等を行い、国・県等の関係機関と協議を進めるための資料とするとともに、今後、策定予定の「道の駅」基本計画や運営計画、かわまちづくり計画等につながる基本的な考え方をまとめることを目的としています。



※環有明海地域：有明海を囲む周辺地域。大川市と密接な関係のある福岡県南及び佐賀県地域をはじめ、有明海沿岸道路の開通により、人やモノの往来が活発化することで、結びつきが強まる熊本県や長崎県にも及ぶ広域的な地域。

2. 現況把握

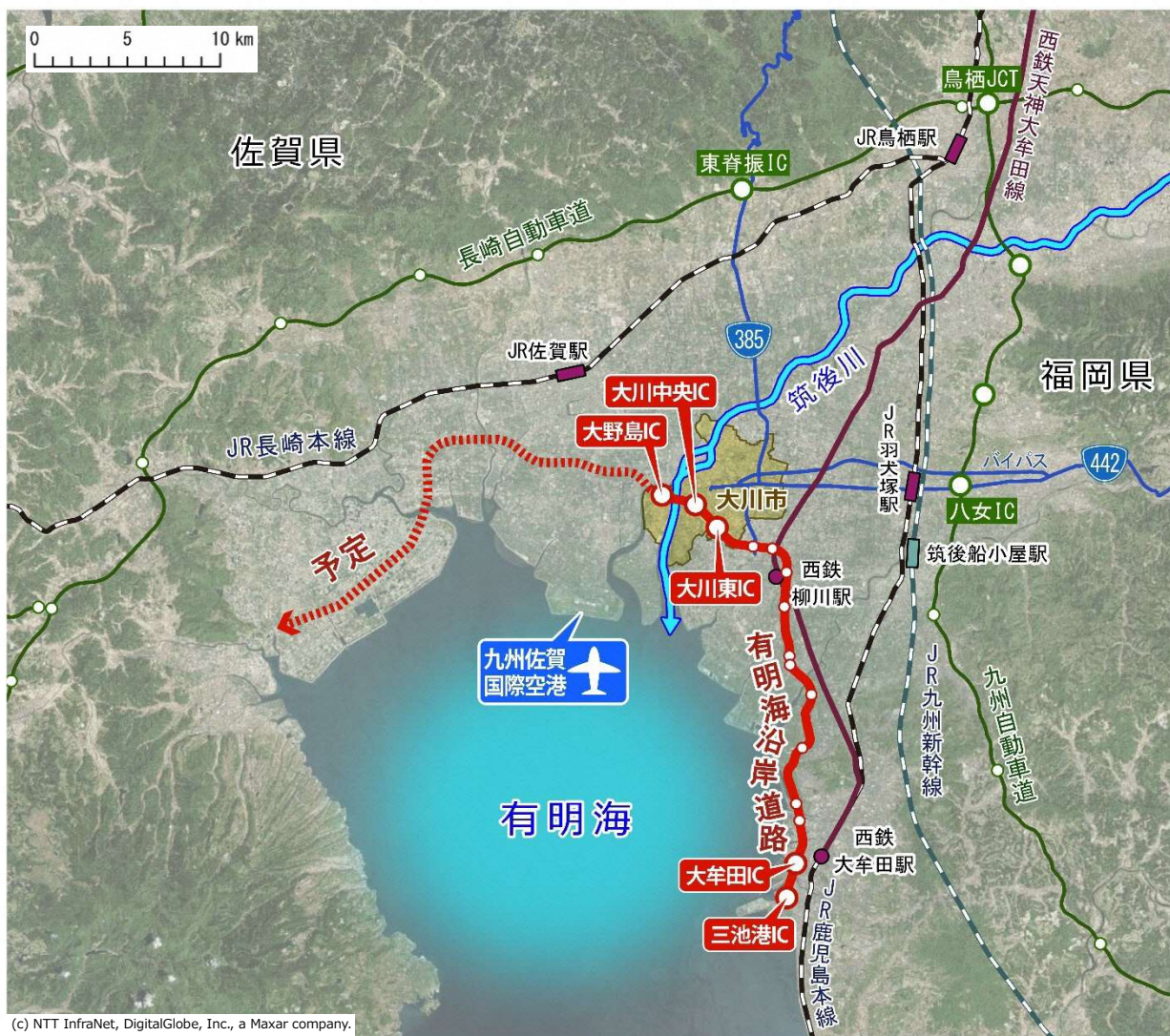
2.1 大川市の現況

令和元年度に実施した「大川の駅」整備に関わる基礎調査に加え、「大川の駅」整備予定地の立地状況や周辺の地域資源の状況などの基礎情報を整理します。

(1) 立地特性

■大川市の立地特性

- ✓ 大川市は、筑後川下流に位置し、自然豊かな環境を誇る福岡県南部の自治体です。
- ✓ 筑後川と有明海沿岸道路のクロスポイントに位置しています。
- ✓ 有明海沿岸道路の中央に位置するとともに、大川東 IC、大川中央 IC、大野島 IC が整備されています。
- ✓ 九州佐賀国際空港が早津江川を挟んで近距離に位置しています。



大川市の立地特性図

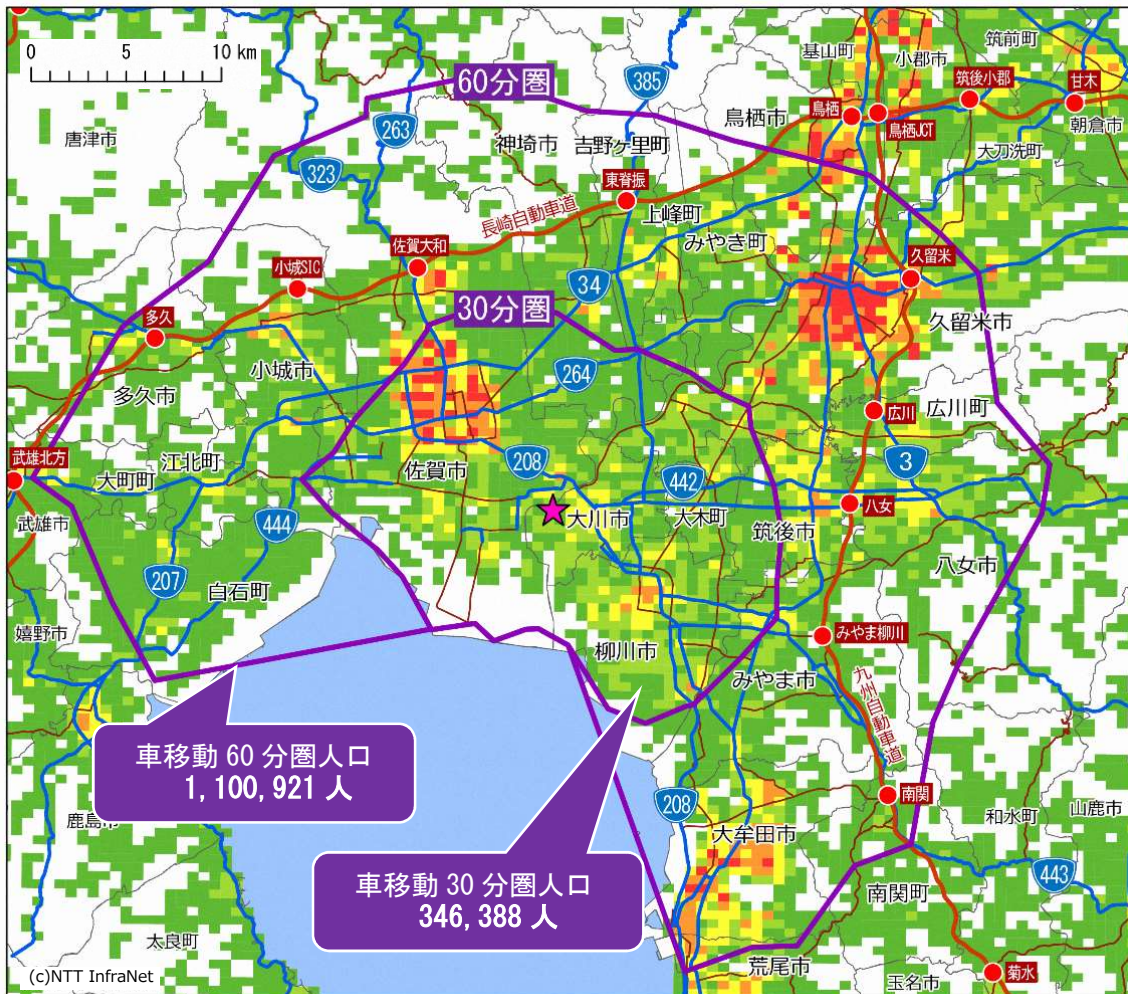
出典：国土数値情報「H30 鉄道データ」「H30 高速道路時系列データ」「H27 緊急輸送道路データ」
(<https://nlftp.mlit.go.jp/index.html>)、

(c) NTT InfraNet, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

(2) 立地状況

■周辺に位置する都市圏と車移動にかかる時間

- ✓ 「大川の駅」の立地を予定している大野島は、車移動の 30 分圏域に佐賀都市圏が、60 分圏域に久留米都市圏が位置しているなど、大規模都市圏を商圈とすることが可能な立地です。
- ✓ 九州佐賀国際空港まで車移動で約 20 分であり、東京などの関東圏や東アジアからの誘客も行いやすくなっています。
- ✓ また、有明海沿岸道路の整備が予定されていることから、有明海沿岸に位置する市町との往来が期待されます。



凡例

★ 「大川の駅」予定地

□ 車移動圏(30km/時)

H27国勢調査人口(500mメッシュ)

200人未満

200人以上500人未満

500人以上1,000人未満

1,000人以上1,500人未満

1,500人以上

● IC

— 高速道路

— 国道

— その他主要道

車移動圏人口

出典：平成 27 年国勢調査、

国土数値情報「R2 行政区域データ」「H30 高速道路時系列データ」

「H27 緊急輸送道路データ」 (<https://nlftp.mlit.go.jp/index.html>)、

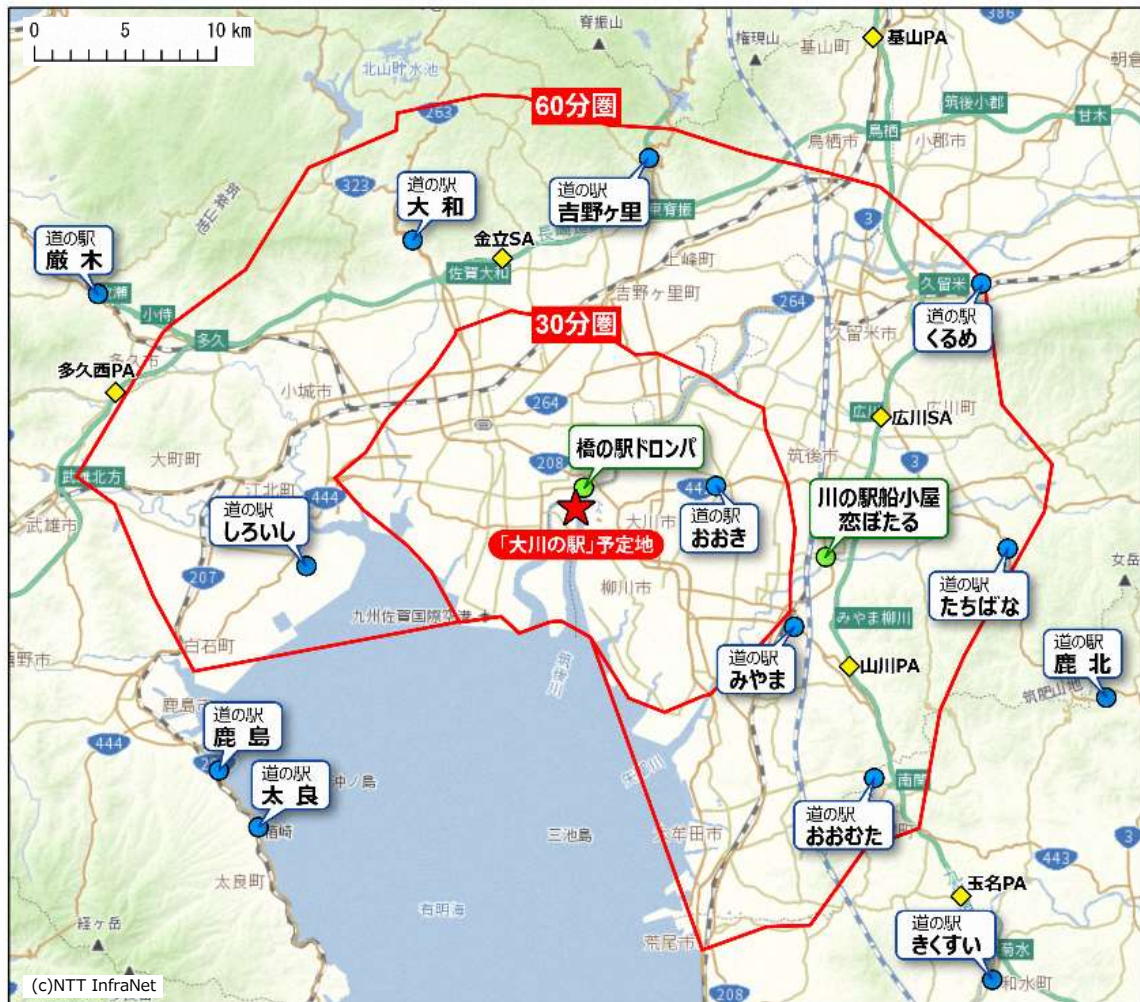
jSTAT MAP (<https://www.e-stat.go.jp/>)

(c) NTT InfraNet

※車移動速度は時速 30km とする。また、高速道路移動は考慮しない。

■周辺に位置する道の駅と車移動にかかる時間

- ✓ 車移動の 30 分圏域に「道の駅おおき」、60 分圏域に「道の駅しろいし」、「道の駅大和」、「道の駅吉野ヶ里」、「道の駅くるめ」、「道の駅たちばな」、「道の駅みやま」、「道の駅おおむた」が位置しています。
- ✓ 道の駅以外にも、「橋の駅ドロンパ」「川の駅船小屋恋ぼたる」などが立地しています。
- ✓ 道の駅が充実した地域であり、差別化や連携などにより集客を図っていくことが求められます。



周辺道路休憩施設の分布状況（時間商圏）

凡例	
★	「大川の駅」予定地
●	道の駅
●	直売所等
◆	SA・PA

出典：国土数値情報「H30 道の駅データ」
 jSTAT MAP (<https://www.e-stat.go.jp/>)、
 (c) NTT InfraNet

※車移動速度は時速 30km とします。また、高速道路移動は考慮しません。

(3) 地域資源

① ものづくり産業

■ 婚礼家具などの箱物から始まった大川家具

- 筑後川の河口にある大川市は、木材の産地、日田の木材の集積地であり、また有明海の海上交通の要衝として重要な役割を果たしてきました。室町時代に高度な木工技術を持つ船大工たちの手により「榎津指物」と呼ばれる釘などを使わずに木材を組み合わせて作られた家具が大川家具の始まりと言われています。
- 昭和 40 年代には戦後のベビーブームや結婚の急増により、大川家具は婚礼家具の代名詞と人気を博しました。大量生産も可能となり、平成元年には生産額 1,000 億円を超える日本一の家具生産地へと発展しました。
- 大川のインテリア産業は家具・建具の産地から、住宅関連産業も含めたトータルインテリア産業へと発展しています。



婚礼家具としても盛んに生産された総桐箆筒



伝統を受け継ぎ新しい試みに挑戦するブランド家具

出典：大川観光協会 (<https://okawa-kk.com/>)

■ 建具に見られる緻密な職人技術

- 「組子」は、釘を使わずに木と木を組み付けて作る建具の技法のひとつで、この技法を使って細工を施したのが「大川組子」です。建具職人が腕を競う中、建具の装飾として自然派生的に誕生しました。図柄のパターンは 200 種類以上にもおよび、現在もこれらを応用して職人が新しい図柄を生み出しています。
- 昭和 63 年に未来に残したい技術として福岡県の特産工芸品にも指定されており、近年では、組子が作る影の美しさに注目した照明をはじめとしたインテリア小物など建具装飾以外にも様々な作品を発表しています。
- 「大川組子」は、JR 九州のクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」の内装に採用されています。



組子製作の様子



組子ランプシェード

出典：大川観光協会 (<https://okawa-kk.com/>)

大川市観光ナビ (<http://www.city.okawa.fukuoka.jp/kankou/index.html>)

② 農水産物

■ブランド農産物

- 大川市は、ブランド品種「あまおう」の主要な生産地となっています。福岡県内のみで生産される「あまおう」は人気が高く、日本国内のみならず、海外にも輸出されています。「あまおう」を使ったお酒や紅茶、酢などの加工品も人気です。
- また、大川市は、福岡県内有数の生産量を誇るアスパラガスの産地です。福岡県産の「博多アスパラガス」は、平成 20 年度に福岡県農産物ブランド化推進対象品目に選定され、筑後平野の肥沃な土壌で栽培されたアスパラガスは、緑色で穂先が締まり、良い味となっています。
- 大川市は、小規模経営が大部分を占め、現在でも 1 農業経営体あたりの経営面積は約 1.2ha と県、南筑後地区の平均以下となっています。小規模経営でありながら、米づくりを中心に、い草、いちご等を組み合わせた農業経営で活路を見いだしてきました。今日では、「いちご＋水稲」、「アスパラガス＋水稲」など、高収益型の複合経営が盛んになっています。



あまおう



博多アスパラガス

出典：大川市 観光ナビ

(<http://www.city.okawa.fukuoka.jp/kankou/index.html>)

■有明海、筑後川で育まれる水産物

- 大川市は、筑後川下流に位置し、多様な生物を育み、「宝の海」と呼ばれる有明海とつながっています。
- 有明海は全国一の海苔の産地です。県別で見ると、福岡県（大川市、柳川市、みやま市、大牟田市）は年間約 11 億枚、約 150 億円の水揚げがあります。
- 平成 18 年からは福岡県有明海産の海苔のブランド化に取り組み始め、「福岡有明のり」として幅広く PR を行っています。
- 日本では有明海の筑後川河口域のみに生息する「エツ」は、この地域でのみ味わえる「幻の魚」です。屋形船の上で獲れたてのエツを味わえる「エツ狩り船」は、大川の夏の風物詩として多くの観光客に楽しまれています。



大川産の「福岡有明のり」



エツ漁の様子

出典：大川観光協会 (<https://okawa-kk.com/>)

大川市観光ナビ (<http://www.city.okawa.fukuoka.jp/kankou/index.html>)

③ 風土・文化

■筑後川が育んだ水運のまちの歴史的背景

- 筑後川の下流に位置する若津港は、宝暦元年（1751年）に久留米藩によって開かれ栄えた河口港です。筑後地方の海の玄関口として、背後の広大な穀倉地帯から米や麦、日田地方の木材の積出港として大小の船舶が常に往来し、大いに繁栄してきました。
- 長さ約 6.5km に渡る若津港導流堤（筑後川デ・レーケ堤）は、明治政府がオランダ人技師ヨハニス・デ・レーケを招き、築いたものです。明治初期、筑後川河口付近では有明海の干満差で生じる土砂の堆積が著しく、船舶の航行が困難になっていましたが、この導流堤のおかげで航路を維持することが可能となり、若津港は河口港として発展しました。
- 明治時代から昭和時代初期にかけて、若津港は米穀流通の中心地であり、博多港の2倍強の輸出金額がありました。周辺には運送会社や造船所、金融機関が立ち並び、物流・金融の一大拠点となりました。
- 若津港導流堤（筑後川デ・レーケ堤）は、100年以上経過した現在でも船舶の航行に大きく貢献しており、河口から5kmほど上流にある「新田大橋」上から美しく見ることができます。
- 筑後川水運は、令和元年度に文化庁が選定する「歴史の道百選」に選ばれています。



若津港導流堤（筑後川デ・レーケ堤）
出典：大川観光協会（<https://okawa-kk.com/>）

■鉄道や港の名残が残る歴史のあるまち

- 昭和10年に旧国鉄佐賀線の鉄橋として筑後川河口に架設された筑後川昇開橋は、世界でも有数の昇降式可動鉄橋です。全長507m高さ30mの2つの鉄塔にはさまれた中央部が23mの高さまで上昇し、その下を大型船が航行できるようになっており、大川市と佐賀市諸富町を繋いでいます。
- 国鉄佐賀線の廃止に伴い、鉄道橋としての役目を終えましたが、町のシンボルである昇開橋を残そうという地元住民の強い要望により、平成8年から遊歩道として活用されています。現在も大川を代表する風景のひとつとして市民から親しまれています。
- 平成15年には国の重要文化財に指定され、平成19年には機械遺産にも認定されました。



筑後川昇開橋



遊歩道として親しまれる昇開橋

出典：大川市観光ナビ（<http://www.city.okawa.fukuoka.jp/kankou/index.html>）
大川観光協会（<https://okawa-kk.com/>）

■筑後地域及び周辺自治体における地域資源の分布状況

- ✓ 特に福岡県筑後地域においては、久留米絣や五月節句織等の布製品、久留米藍胎漆器や一之瀬焼、水田焼等の焼き物等が豊富です。
- ✓ また、筑後川流域の地域では日本酒の生産も盛んです。

表 近隣自治体の物産

都道府県	ものづくり関連の製品	農水産物	加工食品
福岡県 (筑後地域)	<p>久留米絣 八女福島仏壇 八女提灯 ※「経済産業大臣指定伝統的工芸品」 (福岡県全体では7品目)</p> <p>藍胎漆器 きじ車 八女手漉和紙 八女石灯ろう 赤坂人形 掛川 鍋島緞通 柳川神棚 八女竹細工 筑後和傘 八女和ごま 八女矢 城島鬼瓦 久留米おきあげ 大川総桐タンス 大川彫刻 大川組子 柳川まり 棕櫚箒 八女すだれ 天然樟脳 ※「福岡県知事指定特産工芸品・民芸品」(福岡県全体では34品目)</p> <p>大川家具 竹工芸 包丁 さげもん 水田焼 花ござ 一之瀬焼 和ろうそく 花火 川瀬焼</p>	<p>米 麦 ラー麦 アスパラガス レタス オクラ セロリ(セルリー) ホレンソウ ソラマメ タケノコ ナス ネギ トマト キノコ ソノキタケ プナシメジ シイタケ ヒシ イチゴ イチジク キウイフルーツ ブドウ ミカン 桃 梨 柿 ガーベラ 電照菊 八女茶 海苔 アサリ シジミ ガザミ モクズガニ ウナギ クルマエビ ヨシエビ エツ サルボウ(赤貝) ワラスボ イソギンチャク クツゾコ(シタヒラメ) 豚 鶏 乳用牛 肉用牛 い草</p>	<p>日本酒 焼酎 ワイン 味噌 醤油 菜種油 貝柱粕漬 キンブチ鮎 ハヤの甘露煮 久留米ラーメン 赤坂餅 かすてら饅頭 三池高菜</p>
佐賀県 (佐賀市) (鳥栖市) (神崎市) (小城市) (鹿島市) (白石町) (みやき町)	<p>諸富家具・建具 鍋島緞通 名尾手漉和紙 肥前びーどろ 白石焼 佐賀錦 鹿島錦 ※「佐賀県指定伝統的地場産品」 (佐賀県全体では工芸品10品目、食品3品目)</p>	<p>米 麦 もち米 アスパラガス タマネギ トマト マコモタケ レンコン 神埼あーさい イチゴ みかん シュウメン 胡蝶蘭海苔 ムツゴロウ ワラスボ 牡蛎 ガザミ サルボウ(赤貝) 佐賀牛</p>	<p>日本酒 菱焼酎 ガニ漬け 須古(すこ) 寿し 鯉料理 神埼そうめん しろいしてんぺ 小城羊羹 稻荷ようかん 干し柿</p>
熊本県 (荒尾市) (長洲町)	<p>小代焼 ※「経済産業大臣指定伝統的工芸品」 (熊本県全体では4品目)</p>	<p>米 梨 ミカン ブドウ 柿 桃 スイカ 海苔 マジャク アサリ 金魚</p>	<p>生乳 焼酎 ワイン オリーブオイル</p>
長崎県 (諫早市) (島原市) (雲仙市)	<p>長崎手打刃物 ※「長崎県知事指定伝統的工芸品」 (長崎県全体では10品目)</p>	<p>ジャガイモ タマネギ レタス ブロッコリー 大根 白菜 レンコン ニンジン イチゴ メロン マンゴー 小玉すいか ミカン クルマエビ トラフグ ガザミ すっぽん クツゾコ(シタヒラメ) ワカメ 海苔 牡蛎 雲仙牛</p>	<p>日本酒 塩辛 かまぼこ いらこ おこし</p>

(4) 大川市を取り巻く状況

■有明海沿岸道路の整備

- 有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市から佐賀県鹿島市に至る延長約 55km の地域高規格道路で、現在、34.0km（福岡県 27.5km、佐賀県 6.5km）が開通しています。将来的には長崎自動車道などと連結し、九州の広域交通ネットワークの一翼を担う地域高規格道路として機能することとなります。
- 大川東インターチェンジが平成 20 年春開通したことにより、大川市から九州自動車道へのアクセスも容易になり、さらに大川東インターチェンジから大野島インターチェンジ間が令和 3 年 3 月に開通したことにより、さらなる利便性の向上が見込まれます。



都市・空港・港湾を結ぶ有明海沿岸道路

出典：国土数値情報「H30 鉄道データ」「H30 高速道路時系列データ」「H27 緊急輸送道路データ」
<https://nlftp.mlit.go.jp/index.html>、(c) NTT InfraNet, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

■有明海沿岸道路、九州佐賀国際空港、三池港の陸海空が揃った交通利便性の高さ

- 有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市の三池港と、佐賀県の九州佐賀国際空港エリアを結ぶ広域交通ネットワークの形成を目的とした高速道路（地域高規格道路）です。
- 所要時間短縮などにより、九州佐賀国際空港の利用者数の増加が期待されます。
- また、並行する一般道の交通が有明海沿岸道路に転換することにより、渋滞の緩和、事故件数の減少も期待されます。
- 重要港湾である「三池港」の広域物流ネットワークが強化され、物流の効率化が図られます。



有明海沿岸地域の陸海空の広域交通ネットワーク

出典：国土数値情報「H30 鉄道データ」「H30 高速道路時系列データ」
<https://nlftp.mlit.go.jp/index.html>、
 (c) NTT InfraNet, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

■広域的な連携の状況

〈筑後田園都市推進評議会〉

目的	筑後ネットワーク田園都市圏構想の実現を図るため、福岡県と筑後地域の市町が協働してリーディング・プロジェクトに関する事業を実施し、筑後地域の振興に寄与することを目的としています。
主な事業	ちくご定住促進プロジェクト、筑後の観光魅力発信プロジェクト、ちくご子どもキャンパス、スポーツを活用した地域振興プロジェクト
構成市町	1 県 9 市 3 町（福岡県、大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、小郡市、うきは市、みやま市、大刀洗町、大木町、広川町）

〈久留米広域連携中枢都市圏〉

目的	構成市町が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点の形成を目的としています。
主な事業	圏域全体の経済成長のけん引、高次都市機能の集積・強化、圏域全体の生活関連機能サービスの向上
構成市町	4 市 2 町（久留米市、小郡市、大川市、うきは市、大刀洗町、大木町）

〈筑後七国活性化協議会〉

目的	新幹線筑後船小屋駅を核として、地域資源の活用や福岡ソフトバンクホークス等との連携により、筑後七国の活性化に寄与することを目的としています。
主な事業	商工業・観光業の活性化、筑後船小屋駅の利用促進、地域資源を活用した地域振興、ホークスと連携したスポーツの振興、青少年健全育成の支援
構成市町	5 市 2 町（柳川市、八女市、筑後市、大川市、みやま市、大木町、広川町）

〈NPO 法人筑後川流域連携倶楽部〉

目的	筑後川流域圏における地域連携を深めるための情報交換と人的交流を促進し、流域圏における環境向上や文化及び産業復興の発展に寄与します。連携事業により、観光及び地域振興を図ることも目的としています。そのための流域圏での情報共有も必要と考えます。
主な活動	水源の森育成活動、筑後川流域フェスティバル、「筑後川まるごと博物館」構想会議、流域情報誌「筑後川流域新聞」の発行
活動背景	筑後川流域は 4 県にまたがり、人口は約 110 万人。流域圏では母なる筑後川の恵みに感謝し、筑後川を舞台に毎年フェスティバルを開催することにより、上流・中流・下流の交流を図っています。

〈有明沿岸地域観光協会連絡会議〉

目的	広域連携で訪日観光客などを呼び込み、5 市に点在する観光施設間の移動が有明海沿岸道路の延伸で便利になったことから、柳川の川下りや荒尾の大型遊園地、大牟田と荒尾の世界遺産など、各施設の特徴を生かして域内全体の観光客誘致を図ります。
主な事業	観光マップ作りや物産事業、季節ごとのルート観光の展開 等
構成市町	5 市（大牟田市、柳川市、大川市、みやま市、熊本県荒尾市）

〈九州佐賀国際空港活性化推進協議会〉

目的	空港の活性化を官民一体で推進し、空港の振興と佐賀県及び福岡県南西部地域の発展を図ることを目的としています。
主な事業	マイエアポート推進事業、利用促進事業、アクセス向上対策事業
構成市町	佐賀県・福岡県の官・民 132 団体

2.2 整備予定地の状況

(1) 整備想定区域の状況

現在、「大川の駅」の整備が想定される区域（「大川の駅」整備予定区域を除く）の概要は、以下のとおりとなります。

整備想定区域の概要

敷地面積	約 86,000 m ²
用途地域	指定なし
建ぺい率/容積率	70% / 200%
土地利用現況	農地（圃場整備済）
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法 ・農地法 ・農業振興地域の整備に関する法（農振法） ・景観法（筑後川流域景観計画） ・河川法（堤外地）
接道状況	西側：内開中通小佐井開線 東側：大野島北廻り堤防線 北側：大野島北廻り堤防線 南側：上野西切服部開線
インフラ施設	上水道：整備済み （給水管の口径：南側 φ75mm、西側 φ75mm） 汚水処理状況：合併処理浄化槽により処理 雨水排水状況：水路（クリーク）に接続し排水処理
交通アクセス	有明海沿岸道路 大野島 IC より約 500m
周辺施設	・筑後川総合運動公園

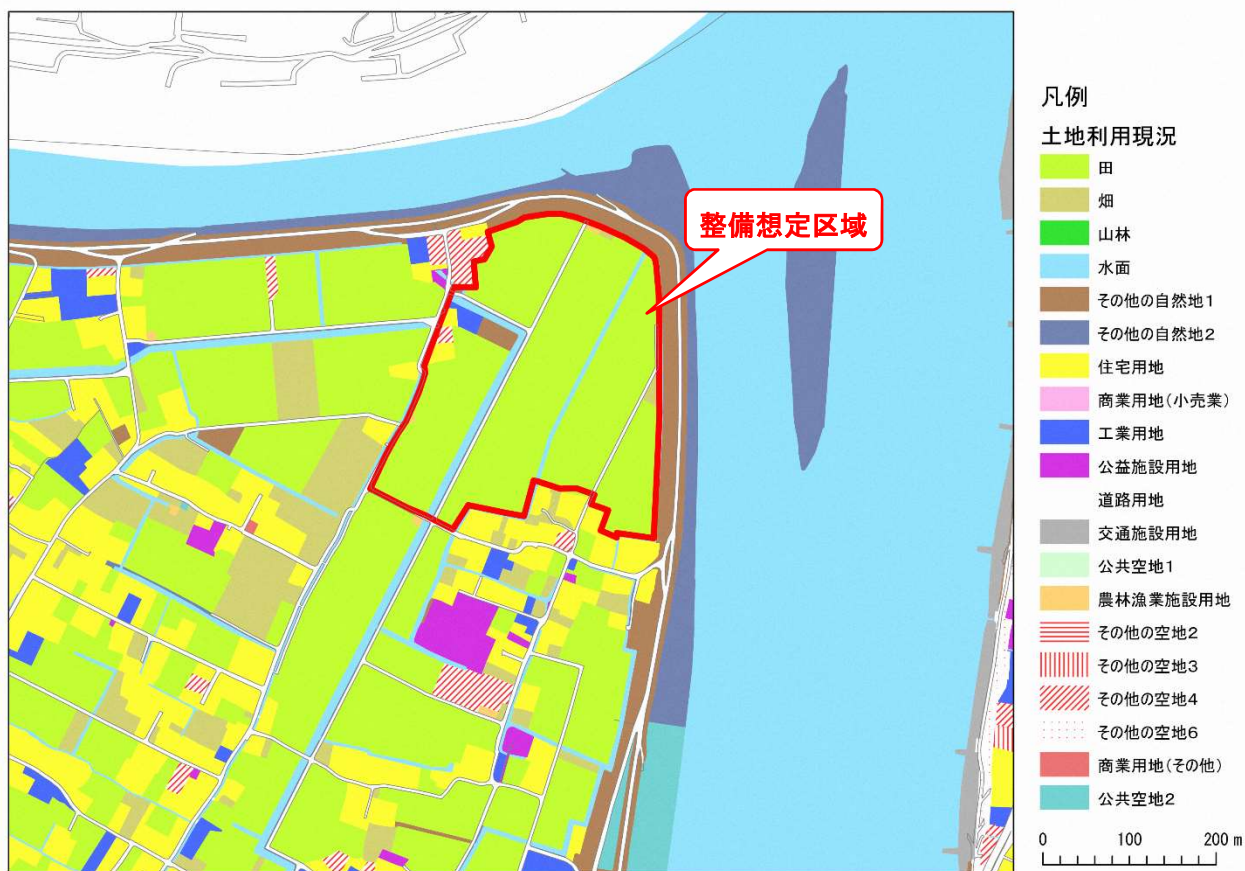


整備想定区域

(c) NTT InfraNet, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

(2) 周辺の土地利用状況

整備想定区域周辺の土地利用に関する状況を下記に整理します。整備想定区域周辺は田畑として主に利用されており、整備想定区域南部には住宅用地が広がっています。



整備想定区域周辺の土地利用状況

出典：都市計画基礎調査

(3) 周辺の道路状況

整備想定区域周辺の道路状況を下記に整理します。西側は内開中通小佐井開線、南側は上野西切服部開線に面しており、北側と東側は大野島北廻り堤防線に面しています。また、整備計画地内には、二丁開線、南松之内瓢箪開線、上野宮浦服部開線が走っています。いずれも幅員 6m 未満と狭くなっています。

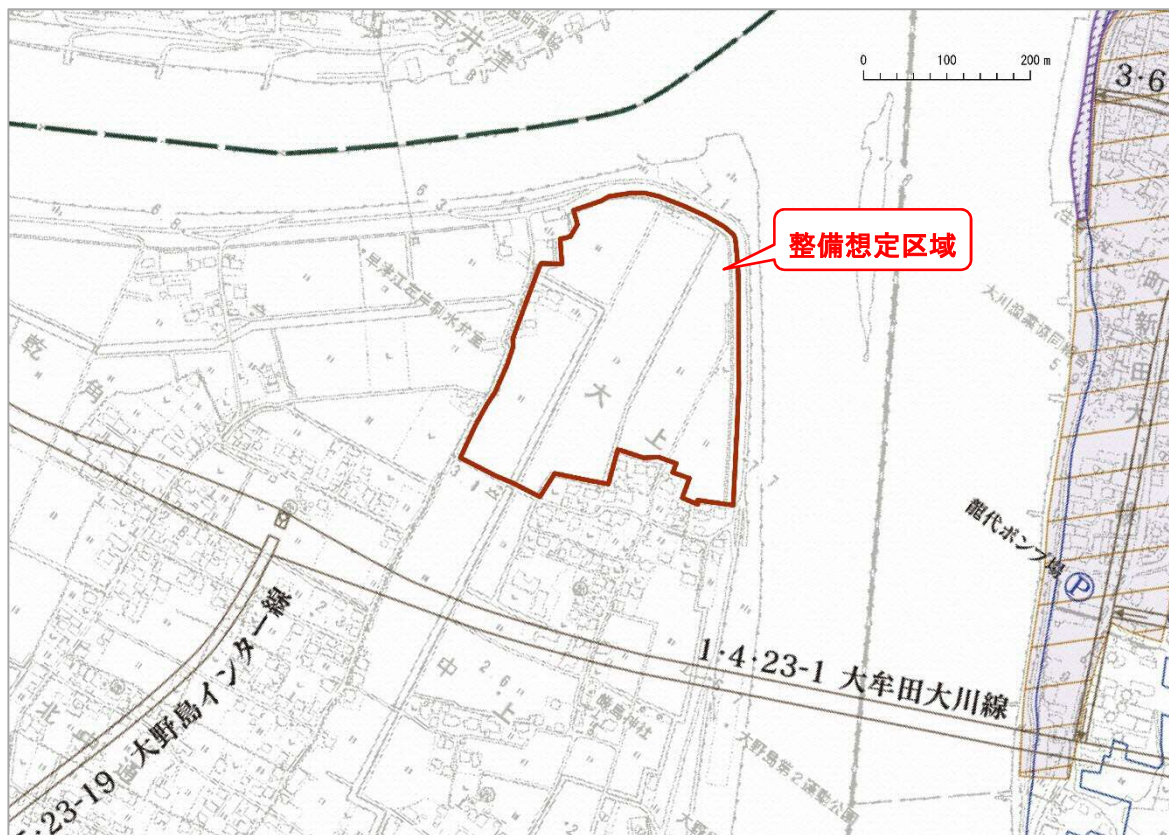


整備想定区域周辺の接道及び道路幅員状況

出典：大川市路線網図、(c) NTT InfraNet

(4) 法規制の状況

整備想定区域周辺の法規制状況を下記に整理します。整備想定区域は、用途地域外となっており、建ぺい率70%、容積率200%の制限があります。ほか、福岡県の開発許可制度に基づく申請や審査が必要になります。

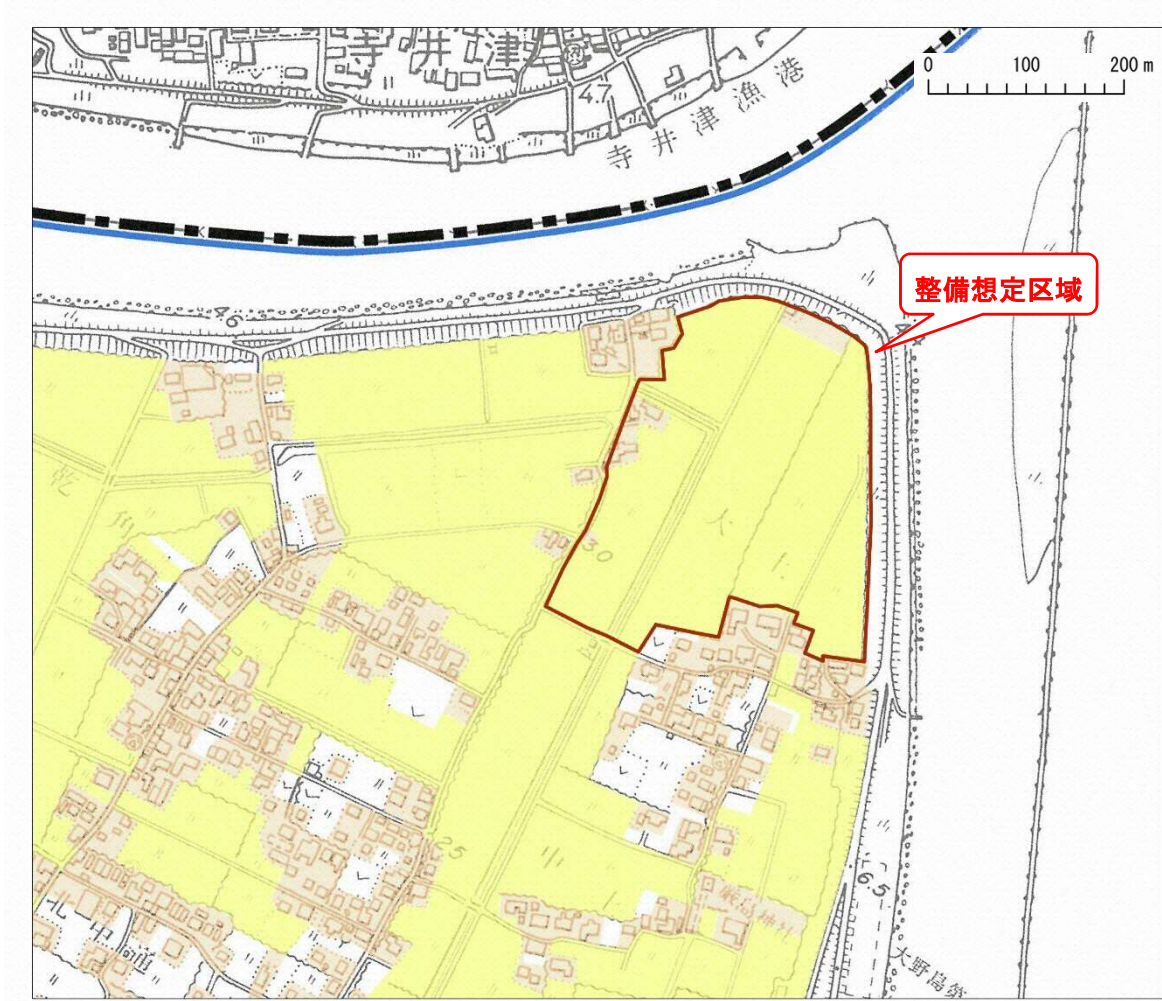


整備想定区域の用途地域図

出典：筑後中央広域都市計画図

また、整備想定区域は、農用地として農業振興地域に指定されています。「大川の駅」の整備にあたっては、この規制を解除する必要があります（農振除外・農地転用）。

整備想定区域は民地となっており、農地だけでなく住宅や工作物がある敷地も含まれます。また、住宅地と隣接している箇所もあり、周辺地域への配慮も必要となります。



出典：大川市農業振興土地利用計画図

凡 例

-----	市 町 村 界
■	都市計画用途区域
—	農業振興地域界
■	宅 地
■	農 用 地
白地	農用地域除外地

整備想定区域の農振法の状況

(5) 防災の状況

整備想定区域の防災の状況を下記に整理します。「大川の駅」の整備にあたっては、防災上の位置づけや「大川の駅」が担う役割を定めた上で、盛土による高上げや施設の高層化による防災性の向上を行う必要があります。事業費や事業スケジュールへの影響も含めて次年度以降も引き続き検討を行います。

また、排水先の状況によっては、調整池の整備を検討する必要があります。

- 「大川市洪水ハザードマップ」によると、整備計画地は 0.5～3m 未満の洪水浸水が想定されます。



洪水浸水想定	浸水深区分	浸水深
赤色	5m以上～10m未満	赤色
オレンジ色	3m以上～5m未満	オレンジ色
黄色	0.5m以上～3m未満	黄色
薄黄色	0.5m未満	薄黄色

出典：大川市洪水ハザードマップ
 ※100～150年に1回起こる大雨を想定
 (令和3年4月更新)

整備想定区域の浸水想定状況（洪水）

- 「大川市津波ハザードマップ」によると、整備計画地は 0.3～1.0m 未満の津波浸水が想定されます。

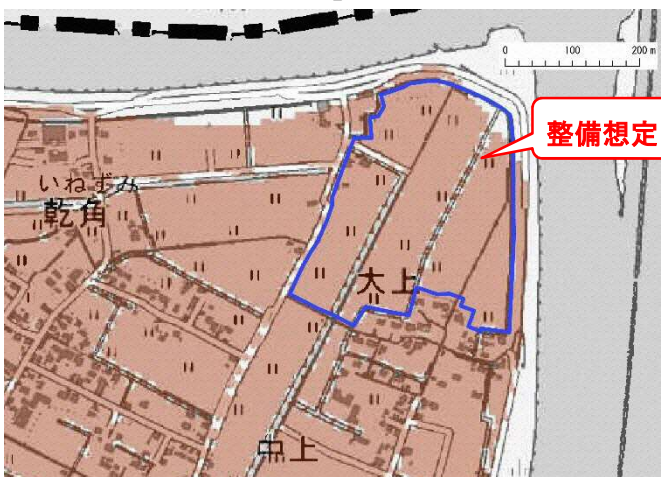


津波浸水想定区域	
緑色	浸水深0.01m以上0.3m未満
黄色	浸水深0.3m以上1.0m未満
オレンジ色	浸水深1.0m以上2.0m未満
赤色	浸水深2.0m以上5.0m未満

出典：大川市津波ハザードマップ
 ※最大クラスの津波が悪条件下に発生した場合を想定
 (平成31年4月更新)

整備想定区域の浸水想定状況（津波）

- 「福岡県高潮浸水想定区域図」によると、整備計画地は 5.0～10.0m 未満の高潮浸水が想定されます。



凡例 浸水深(m)			
薄黄色	0.3m未満	赤色	3.0m以上 5.0m未満
黄色	0.3m以上 0.5m未満	オレンジ色	5.0m以上 10.0m未満
オレンジ色	0.5m以上 1.0m未満	赤紫色	10.0m以上 20.0m未満
赤色	1.0m以上 3.0m未満	紫色	20.0m以上

出典：福岡県高潮浸水想定区域図
 ※最大規模の台風を想定（室戸台風相当の中心気圧と伊勢湾台風相当の移動速度、半径）
 (令和元年12月作成)
 電子地形図 25000 (国土地理院)

整備想定区域の浸水想定状況（高潮）

3. コンセプト

3.1「大川の駅」の位置づけ（「大川の駅」に求められていること）

「大川の駅」の位置づけについて、大川市の現況や令和元年度に実施した「大川の駅」整備に関わる基礎調査結果、検討部会の意見等を基に整理します。

大川市の強み・魅力（内部環境）

- ・家具や建具など職人技術で築き上げた、日本一の家具産地・ものづくり産業
- ・全国的な知名度を誇るあまおうや福岡有明のりなどの農水産物
- ・かつて若津港を中心に水運のまちとして栄えた歴史的背景と、周辺地域と連携・交流して育まれた風土
- ・筑後川昇開橋や若津港導流堤（筑後川デ・レーケ堤）、隣接する佐賀県側には三重津海軍所跡などの近代日本の文化財等の存在と有明海・筑後川の雄大な景観を保有する地理的特徴 など

活かすべき契機（外部環境）

- ・有明海沿岸地域を繋ぐインフラ整備の進展
- ・有明海沿岸道路計画延長 55km の中間地点に位置する大野島 IC
- ・有明海沿岸道路と筑後川のクロスポイントに立地し、九州佐賀国際空港に近接
- ・三池港とも繋がり、陸海空が揃った交通利便性の高さ
- ・ICT の普及・発展 など

市民や周辺自治体住民のニーズ（令和元年度「大川の駅」整備に関わる基礎調査より）

- ・「有明海で採れた旬の魚や地元で採れた新鮮野菜が豊富に揃った農産品直売所」、「大川市の特産品エツやウナギなどの旬の魚、地元の野菜を使った地産地消レストラン」、「自然に囲まれてゆったりとくつろげる、水辺にある親水公園」へのニーズが高くなっています。
- ・さらに、「大川組子や木工体験など大川市の伝統技術を体験できるイベント」、「大川家具を使用した筑後川の眺望を楽しめるオープンデッキカフェ」などにも興味が示されています。

「大川の駅」の位置づけ（「大川の駅」に求められていること）

- ① 福岡県の玄関口として**国内外の多くの人に来てもらい、地域の人にも愛される常に人が集い賑わう場を創出する。**
- ② 有明海・筑後川の雄大な景観を保有する**この地域特有のユニークな自然資源を活かし、くつろぎ、癒される水辺空間を創出する。**
- ③ 受け継がれてきた大川の「匠の技」や「伝統文化」、その価値をより一層高めるとともに、**「ものづくり」を牽引する拠点として、地域産業の未来が見える場を創出する。**
- ④ **島全体の活用と既存施設との連携**により、地域を一体的に楽しめる魅力ある多様なサービスを提供するとともに、地域の人が携わり活躍することにより、経営的にも**自立した運営**を行う。
- ⑤ 筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域と**連携し**、この地域の食・文化・ものづくりなど多くの魅力を発信する、**持続的に地域の発展を支える拠点**となる。
- ⑥ 災害時には、**有明海沿岸道路を軸とする広域的な防災拠点並びに大野島・大詫間地域の防災拠点として機能する。**

3.2 基本理念

(1) 基本理念

「大川の駅」の位置づけを踏まえ、基本理念を下記のように設定します。

古くから筑後川の水運に恵まれ、**ヒト・モノ・コト**が行き交い栄えた大川市
地の利を活かした**集客・交流拠点**として、さらには大川市とこの地域の
「ものづくり」に**大きなうねりを起こす核**となり、かつて、先人たちが思い描いた
「環有明海地域の『扇の要』を実現させる

大川市は、雄大な母なる大河筑後川とともに歩み、成長してきた。

江戸時代に開かれた若津港は、上流の久留米に物資を運ぶための重要な中継港として、また日田から筏を組んで流れつく丸太を集約する港として栄えた。そこでは、船大工を起源とする家具職人が育ち、大川の礎が築かれた。明治、昭和の時代を経て、平成の初めにはついに日本一の家具産地となった。

一方、「大川の駅」の整備予定地である大野島地区の古史（大野島村史）に、戦後まもない時期に策定された計画書の記載があり、その一文に「・・・佐賀、福岡両県の有明海岸道路を結ぶ扇の要の役割を果たすこととなるべし。」との記述がある。

このように、大野島北部から見える筑後川の雄大な景観や大川市街地の背後には、伸び行く大川の歴史、先人たちが思い描いた大川の未来が見えるのである。

そして、令和3年3月には、いよいよ待望の有明海沿岸道路大野島 IC が開通し、この地の利を活かし、現代においても、ヒト・モノ・コトが行き交う広域的な集客・交流拠点として、さらには、大川市とこの地域の「ものづくり」に新たなムーブメントを起こす拠点として「大川の駅」を整備し、これを核とした「環有明海経済圏域の構築」を目指すものである。

また、この構想は、大川市とこの地域の活性化の起爆剤となるよう事業を進めていくものであり、将来的な拡張性も企図し、例えば、ホテル、コンベンション、商業施設等の民間施設を誘致し、国際会議などの MICE やものづくりイベント等を開催し、大川市とこの地域の発展に寄与する拠点となることを内包している。

この構想の実現のためには、古くからある筑後川流域の一体性や有明海沿岸道路開通を契機とする地域間の連携・協力が必要であり、大川市がこの連携の「要」となって、筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の協力を仰ぎ、情報発信と滞在拠点としての機能を充実させ、日本全国に通用する地域共通の固有名詞である「有明海」「筑後川」のネームバリューを最大限活かし、国内はもとより世界から注目される産業・観光圏を形成する。



(2) 「大川の駅」の構成

「大川の駅」は、「広域集客交流機能」と「広域産業・観光振興機能」を有し、互いに相乗効果を生み出し合うことで産業・観光イノベーションを起こし、筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域における広域の要として存在し、地域振興に資する施設とします。

◆広域集客交流機能

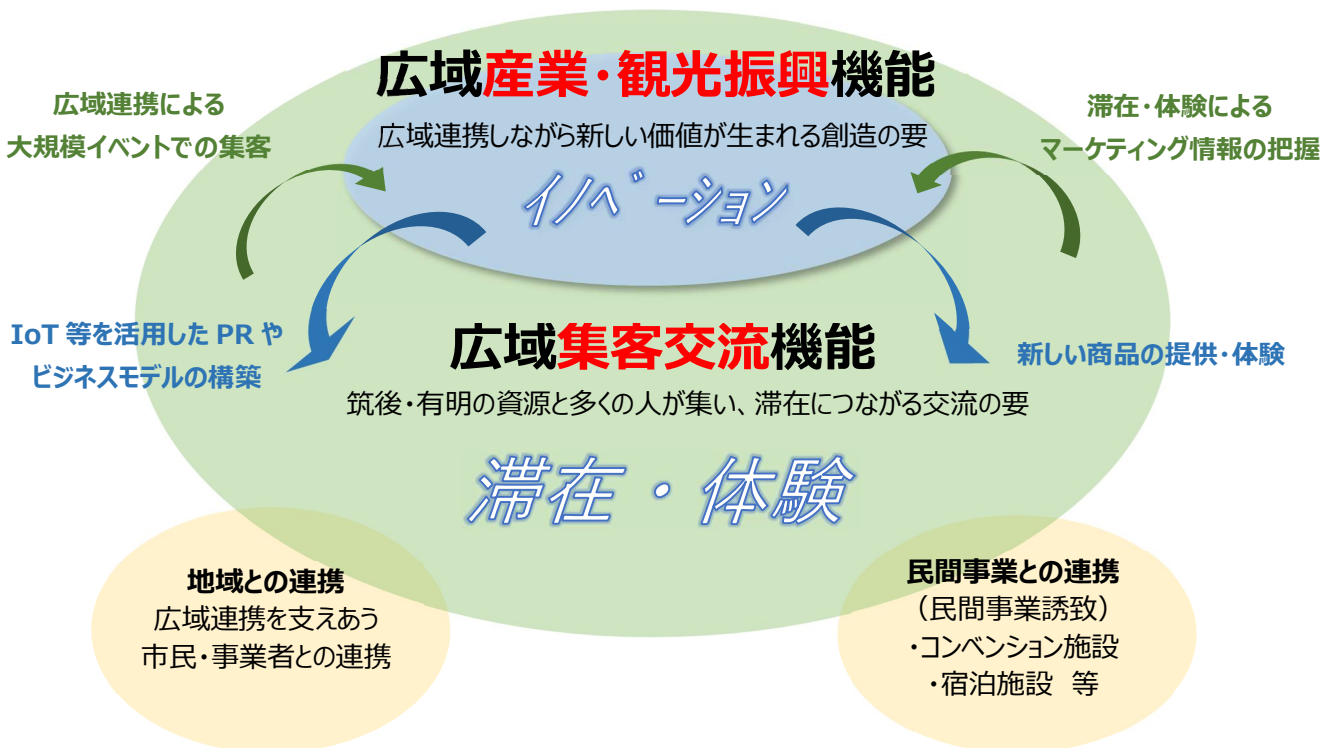
筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の資源を活用し、人が集まり、体験し滞在する交流機能

- 屋内で楽しむ「食べる」「くつろぐ」「過ごす」「泊まる」などが屋外にも拡がり、大野島の雄大な景観や自然に囲まれ、暮らすように滞在を楽しめる場所。
- 暮らしをデザインしてきた大川だからこそ提供できる、「大川の駅」、大野島、大川のまちが一体となった特別な滞在体験

◆広域産業・観光振興機能

家具のまちとしての拠点性を活かし、地域連携と DX の推進により圏域の産業・観光イノベーションを牽引する機能

「大川の駅」の構成



3.3 事業コンセプト

(1) 事業コンセプト及び方向性

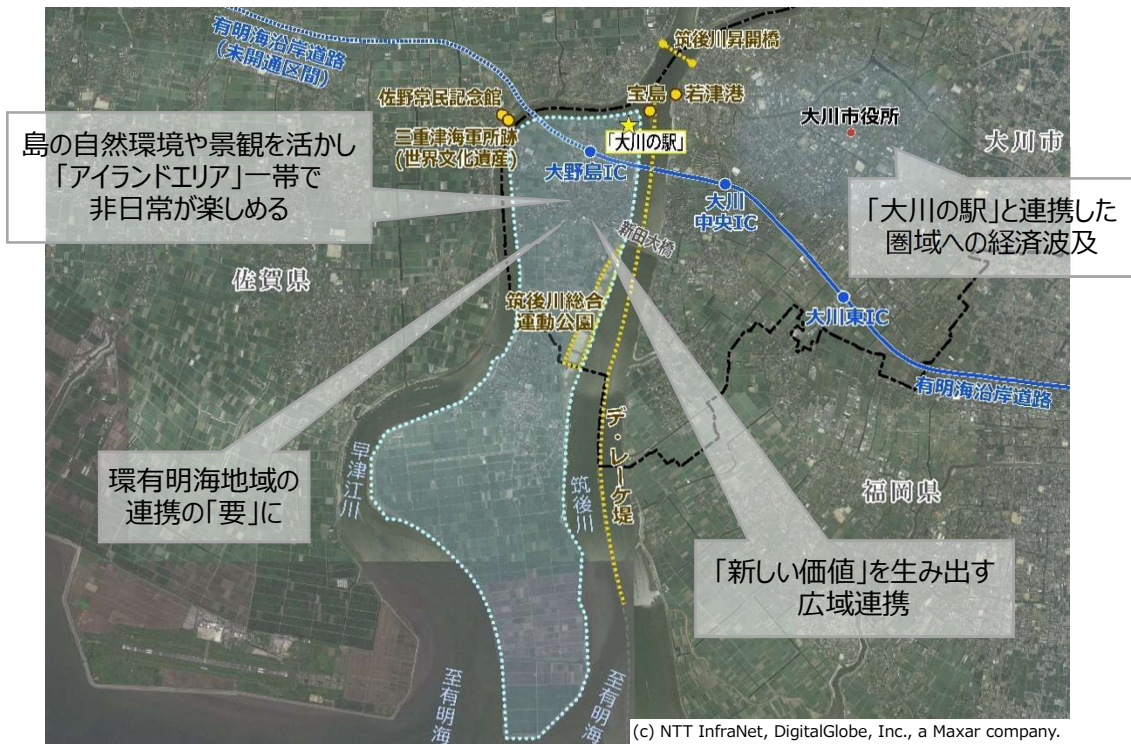
「大川の駅」の基本理念及び広域的な地域振興の考え方を踏まえ、事業コンセプトを下記のように設定します。

「食」×「ものづくり」×「島」×「水辺」

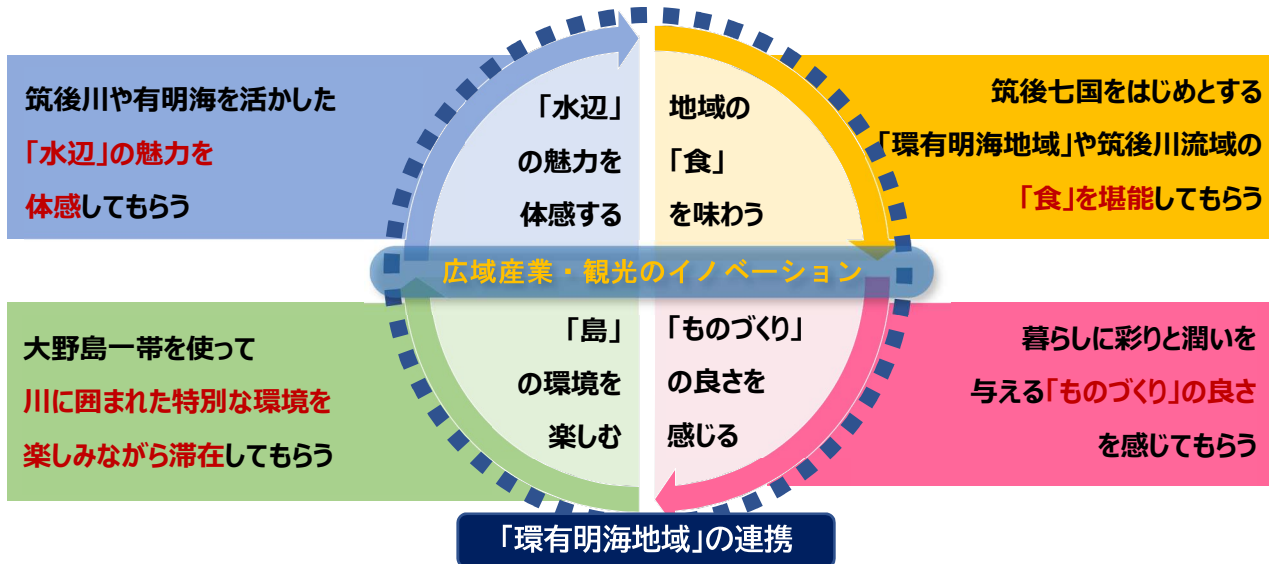
有明海、筑後川、筑紫平野に囲まれて
たのしく、あそび、くつろぐ

「環有明海地域」や筑後川流域の体感型情報発信ステーション

「大川の駅」及び大野島、大川市の連携イメージ



事業コンセプトの4つの観点



事業コンセプトを4つの観点に整理し、それぞれの方向性を示します。

地域の
「食」
を味わう

筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の「食」を堪能してもらう

〈方向性〉

- ◇ 筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の広域の「食文化」を楽しめる。
- ◇ この地域の農水産物や商品を買ってもらう。
- ◇ この地域一帯が連携し、新しい商品のブランディング・開発を行う。

「ものづくり」の良さを
感じる

暮らしに彩りと潤いを与える「ものづくり」の良さを感ってもらう

〈方向性〉

- ◇ 筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の家具、什器、内装、照明、食器などを実際に使ってもらうことで、「ものづくり」の良さを体感してもらう。
- ◇ この地域の家具や工芸品、名産・特産品を買うことができ、気に入ったものを自分の暮らしに取り入れられる。
- ◇ この地域一帯が連携し、「ものづくり」の魅力を高め、情報発信する。
- ◇ ビジネスチャンスが生まれ、この地域のものづくり産業の未来につながる。
- ◇ この地域の仕事に触れることで、ものづくりの技術や良さ・楽しさを体感できる。

「島」
の環境を
楽しむ

大野島一帯を使って川に囲まれた特別な環境を楽しみながら滞在してもらう

〈方向性〉

- ◇ 一人でも、ファミリーでも1日楽しめるコンテンツを充実させる。
- ◇ 木製遊具など、大川らしさを感じながら楽しめるアミューズメント機能を整える。
- ◇ 遊歩道やサイクリングロードなどを整備し、近隣の運動公園などと連携し大野島一帯を楽しむ。
- ◇ 自然に囲まれ、夜の景色も楽しみながら、ゆっくりと滞在でき宿泊もできる。

「水辺」
の魅力を
体感する

筑後川や有明海を活かした「水辺」の魅力を体感してもらう

〈方向性〉

- ◇ 筑後川や昇開橋、導流堤など自然環境や文化財、歴史的背景がある景観を楽しめる。
- ◇ 水辺空間で遊び、くつろぎ、自然を学ぶことができる。
- ◇ 有明海や筑後川などでのレクリエーションを充実させる。
- ◇ 若津港、大川テラツツアなどとの船での往来で周辺地域に賑わいを波及させる。

(2) 事業プランの検討

事業コンセプト、事業の方向性を踏まえて、事業プランを検討します。

事業の方向性（前頁に掲載した内容）	事業プラン
筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の「食」を堪能してもらう	
筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の広域の「食文化」を楽しめる。	1 カフェ、レストラン等地域の食材を使った料理の提供。 2 収穫・製造体験・イベントの開催。（体験農園、ドライフルーツ・ジャムづくり、天日干し海苔づくり、えつ、あさり、牡蠣の収穫など）
この地域の農水産物や商品を買ってもらう。	3 大川市をはじめとする地域の製品の販売。（直売所・物産販売所など） 4 時季に応じた広域イベントを開催し、新鮮な旬のものや地域の名産・特産品を販売。（広域セレクトショップ・広域連携マルシェでのテーマ商品や期間限定商品の販売など）
この地域一帯が連携し、新しい商品のブランディング・開発を行う。	5 この地域の自治体、民間企業、団体、「道の駅」などの連携による地域資源の開発、商品のブランド化、販路開拓 6 筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の「道の駅」と連携した地域連携ブランドの確立と新商品開発。 7 インターネット、SNS、IOT、VR などの活用により、この地域の食情報の発信。
暮らしに彩りと潤いを与える「ものづくり」の良さを感じてもらう	
筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の家具、什器、内装、照明、食器などを実際に使ってもらうことで、「ものづくり」の良さを体感してもらう。	8 この地域の伝統工芸品、名産・特産品、県産材でコーディネートされたくつろげる空間の創出。（施設全体の設え・デザイン・什器など） 9 筑後七国などの市町をテーマにした空間の演出。 10 思い出家具を使ったコンテンツの充実。（レストラン・カフェでの活用など）
この地域の家具や工芸品、名産・特産品を買おうことができ、気に入ったものを自分の暮らしに取り入れられる。	11 この地域の伝統工芸品、名産・特産品など商品の提供。（広域セレクトショップ、テーマ商品や期間限定商品の販売など） 12 カフェやレストランでコーディネートし、実際に使った伝統工芸品、名産・特産品などの商品としての提供。（家具コンシェルジュ、クラフトショップなど）
この地域一帯が連携し、「ものづくり」の魅力を高め、情報発信する。	13 この地域の自治体、民間企業、団体、「道の駅」などの連携による地域資源の開発、商品のブランド化、販路開拓。 14 インターネット、SNS、IOT、VR などの活用による「ものづくり」の情報発信。
ビジネスチャンスが生まれ、この地域のものづくり産業の未来につながる。	15 インターネット、SNS、IOT、VR などの活用による県産材、伝統工芸品、名産・特産品を使った商品の開発や新しいライフスタイルの提案。 16 ビジネスマッチングの機会創出。（ものづくり創造ラボなど）
この地域の仕事に触れることで、ものづくりの技術や良さ・楽しさを体感できる。	17 ものづくりを本格的に体験できるコンテンツの充実。（DIY スペースの貸し出しや家具づくりワークショップの実施など） 18 子どもがものづくりやものづくりに関連する仕事に触れられる機会の創出。（木工体験教室の開催やお仕事体験など）
大野島一帯を使って川に囲まれた特別な環境を楽しみながら滞在してもらう	
一人でも、ファミリーでも1日楽しめるコンテンツを充実させる。	19 長期間滞在コンテンツの充実。（キャンプ場など） 20 大型イベントの開催。（野外フェス、スポーツイベントなど）
木製の遊具など、大川らしさを感じながら楽しめるアミューズメント機能を整える。	21 子ども向けアスレチックや遊具の設置。 22 季節に応じた子どもの遊び場の創出。（仮設のプールイベントなど）
遊歩道やサイクリングロードなどを整備し、近隣の運動公園などと連携し大野島一帯を楽しむ。	23 堤防上を回遊できる環境整備。（サイクルロード・遊歩道など） 24 大野島一帯を回遊し楽しめるサービス提供。（レンタサイクルなど） 25 周辺に位置する総合運動公園やふれあいの家との連携。
自然に囲まれ、夜の景色も楽しみながら、ゆっくりと滞在でき宿泊もできる。	26 宿泊機能の整備。（キャンプ場・フランピングサイトなど）
筑後川や有明海を活かした「水辺」の魅力を体感してもらう	
筑後川や昇開橋、導流堤など自然環境や文化財、歴史的背景がある景観を楽しめる。	27 周囲の自然環境を楽しめる空間の創出。 28 水辺と施設間の連携。（展望デッキなど）
水辺空間で遊び、くつろぎ、自然を学ぶことができる。	29 河川敷や堤防、宝島の活用。（親水空間、サイクルロード、キャンプ場） 30 防災学習・防災体験。
有明海や筑後川などでのレクリエーションを充実させる。	31 有明海・筑後川を活かしたレクリエーションの充実。（筑後川昇開橋クルーズの出航など）
若津港、大川テラツツアなどの船での往来で周辺地域に賑わいを波及させる。	32 水辺交通の復活。（若津港や大川テラツツアとの渡し船の出航など） 33 周辺の港・施設等との連携。

(3) 広域連携のあり方

「大川の駅」の基本理念を踏まえて、広域連携のあり方を下記に示します。

広域連携により、筑後七国をはじめとする「環有明海地域」や筑後川流域の産業・観光をイノベーションする

有明海・筑後川の魅力発信

有明海・筑後川の
ネームバリューを活かした
広域的な産業・観光の魅力発信

〈方向性〉

- ◇ **広域的な産業・観光資源をテーマにしたイベント開催**
この地域の産業・観光資源をテーマにしたイベントや、各地域の資源、祭り、催事のPRなど時季に応じたイベントを定期的開催します。

○産業・観光資源の例 地酒、みかん、いちご、なし、ぶどう、ナス、トマト、菊、お茶、海苔、牡蠣、うなぎ、えつ、久留米餅、家具、建具、花ござ、陶磁器、焼き物など

○祭り、催事の例 柳川ひな祭り、新酒まつり、陶器まつり、えつ祭り、大蛇山まつり、久富観音堂盆綱曳き、ワインまつり、木工まつりなど

- ◇ **広域的な産業・観光の情報発信**
農水産物、伝統工芸品、名産・特産品、祭り、催事など、この地域特有の産業・観光資源の魅力を発信します。

大川の拠点性を活かしたビジネス開拓

大川市の家具の一大物流拠点としての拠点性を活かした新たなビジネスの開拓

〈方向性〉

- ◇ **新しいビジネスモデルの構築**
インターネット、SNS、IoT、VRなどの活用により、顧客や市場などの情報を収集・分析し、新しいビジネスモデルを構築します。
- ◇ **ニーズをダイレクトに反映した新しい商品やライフスタイルの提案**
インターネット、SNS、IoT、VRなどの活用により、「大川の駅」の利用者のアクティビティを収集、分析し、県産材、伝統工芸品、名産・特産品を使った商品の開発や新しいライフスタイルを提案します。

県境をもまたいだマッチングとイノベーション

県境をもまたいだパートナーシップ・ビジネスマッチングによる産業・観光イノベーション

〈方向性〉

- ◇ **地域・広域の官民連携による産業・観光振興**
地域の自治体や民間企業、商工会議所、観光協会のみならず県内外の団体が連携してDMOや地域商社などを組織し、DXの推進や、地域資源の活用、商品のブランド化、情報の収集・分析、販路開拓などにより、広域産業・観光のイノベーションを起こします。
- ◇ **ビジネスマッチングなど経営サポートによる地域企業・個人事業者の支援**
地域の企業や、個人事業者（農林水産業、製造業、運輸業、飲食業など）が抱える経営課題などを収集し、金融機関等による県内外の広域的なビジネスマッチング、人材確保、海外展開、働き方改革など様々な経営サポートにより、企業等の支援を行います。

3.4 関連施設と災害時の活用

(1) 関連施設（民間事業誘致）

関連施設としては、「広域集客交流機能」との連携による、体験農園・観光農園の展開や飲食機能等への食材提供等で連携が想定される農園と、「広域産業・観光振興機能」との連携が想定されるコンベンション施設や宿泊施設等の民間施設の誘致等を想定し、民間事業用地を確保することが想定されます。

◆体験農園・観光農園

「広域交流機能」と連携し、来訪者に農作物の収穫体験を楽しんでもらうほか、道の駅のカフェ・レストランと連携し食材として提供することや、収穫した農作物をその場で調理するなど、「環有明海地域」や筑後川流域の農産業を感じる体験や食の提供を行います。

◆宿泊施設

「広域産業・観光振興機能」及びコンベンション施設を利用する世界中のバイヤーが宿泊する宿泊施設。国際会議や展示会・販売会に参加しながら大野島に滞在するとともに、テレワーク・サテライトオフィスとしても活用できる設備が整っていることで長期間滞在することが可能です。

また、ワーケーションとしての長期間滞在や、家族連れでの MICE 観光にも対応しているなど、ビジネスだけでなく観光としても滞在を楽しめ、大野島の雄大な自然環境を楽しみながら宿泊することができます。

◆コンベンション施設

「広域産業・観光振興機能」と連携し、新たに生み出された商品などの展示会・販売会を実施し、世界中の家具やインテリアバイヤーが集結するとともに、木工祭り等と連携し、一般客も対象にインテリアイベントを行うなど、ものづくりの展示・販売にまつわる集客の拠点とします。

また、インサイトマーケティングで手に入れた利用者潜在ニーズなどを基に、ディレクターやデザイナー、バイヤー等の専門家の知識が結集する会議等が開催され、産業イノベーションの潮流を引き起こす拠点とします。

◆商業施設

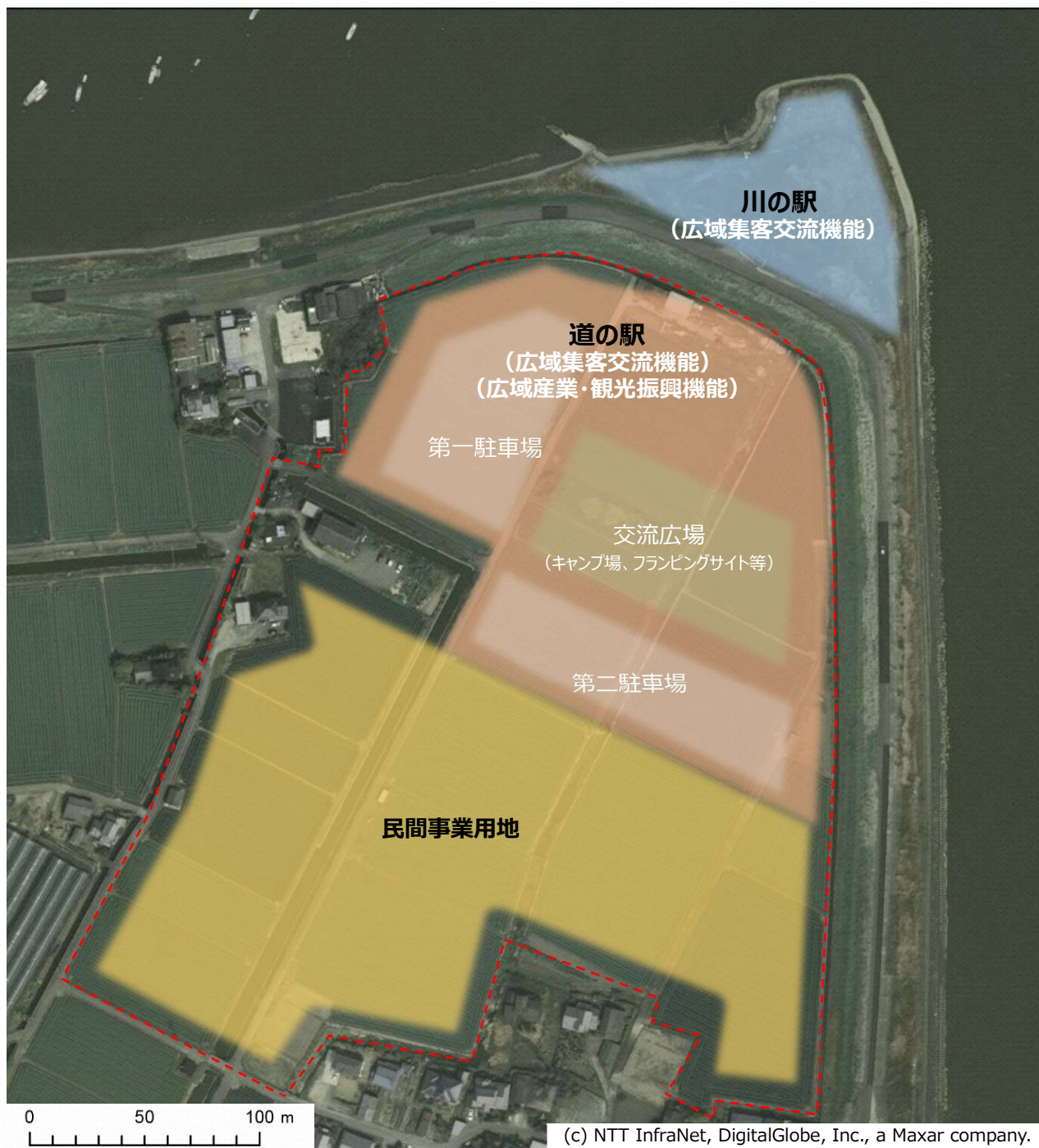
「広域交流機能」と連携し、「大川の駅」の集客力を高め、相乗効果を発揮する商業施設を誘致します。

(2) 災害時の活用

「大川の駅」は、災害時において、有明海沿岸道路を軸とした広域の防災支援施設として活用します。また、大野島・大詫間地域の一時避難・受入施設として活用します。

3.5 全体イメージ図

「大川の駅」について、下記のような配置イメージを想定します。



※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。

4. 施設計画

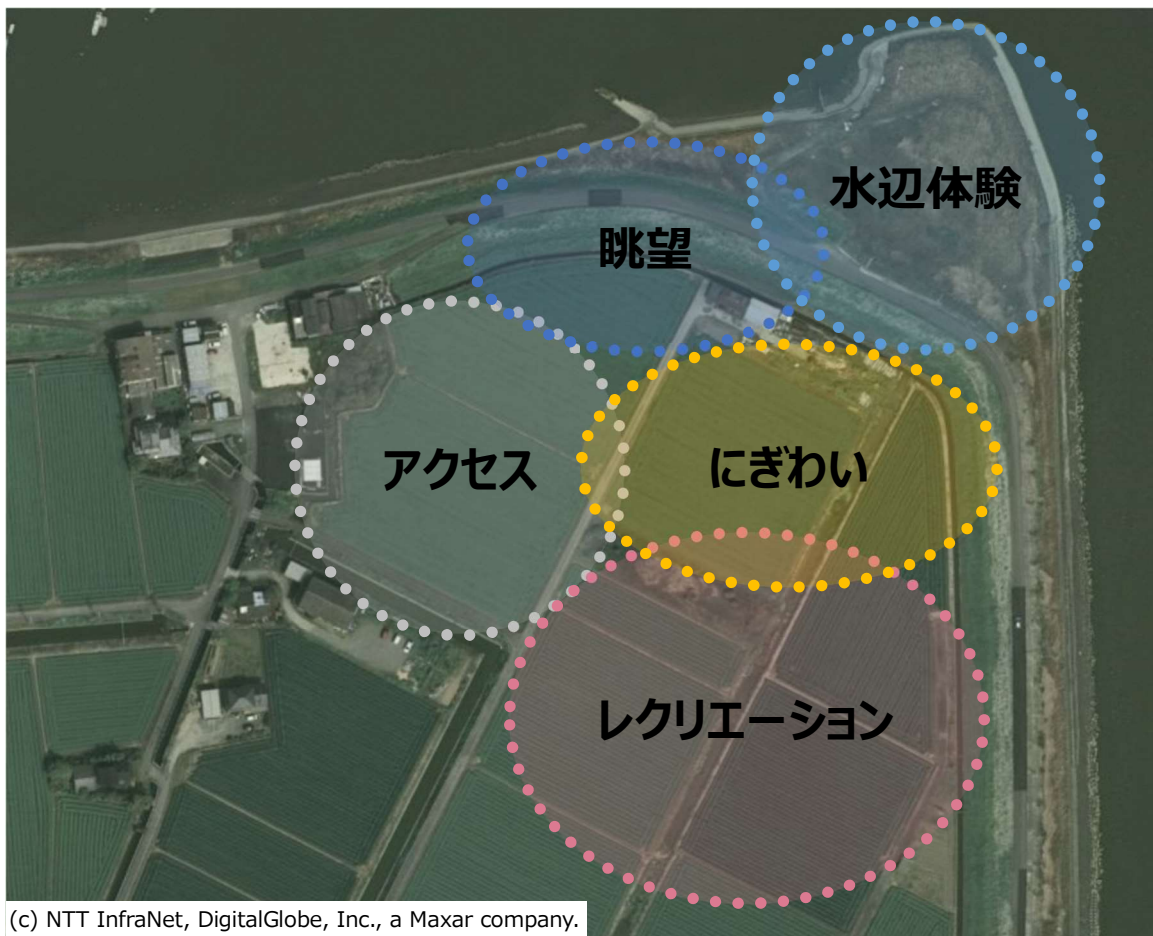
本項以降は、「大川の駅」の将来的な拡張部分（民間事業用地）を除く、「広域集客交流機能」、「広域産業・観光振興機能」、「道の駅・川の駅の基本機能」などの検討を行います。

4.1 基本的なゾーニング

基本的な考え方に基づき、ゾーニングを下記のように設定します。

■ゾーニングの基本的な考え方

ゾーニング	考え方
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 大野島 IC との位置関係から、IC より最もアクセス利便性の高い敷地の西側にアクセス関連の機能（進入口や駐車場、道路休憩機能など）を配置する。
眺望	<ul style="list-style-type: none"> 筑後川昇開橋等への眺望を楽しみながら滞在するための施設を敷地の北側に確保する。
水辺体験	<ul style="list-style-type: none"> 水辺体験に関連する川の駅の機能は河川敷に配置する。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> 開放感を演出し開けたスペースを要するレクリエーション（子供の遊び場、キャンプ場など）に関連する機能はまとまった配置とする。
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> 集客に資する機能（イベント広場など）は、なるべく敷地中央などまず目につく配置とし、眺望やレクリエーション、水辺体験など、「大川の駅」の各機能と連携して、にぎわいを創出する。



(c) NTT InfraNet, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。

4.2 導入機能

事業プランを踏まえて、導入機能を整理します。なお、掲載している内容は、基本計画において精査を行います。

導入機能	施設	事業プランとの対応				
		食	ものづくり	島	水辺	
飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ ・レストラン ※思い出家具カフェ・レストランも兼ねる 	1	8・9・10・12			
物販	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所（農水産物等の生鮮食品） ・物産販売所（加工品も含む） ・クラフトショップ（テナントを想定） 	3・4	8・9・11・12			
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広場 	4	8・9・10	20・22		
	<ul style="list-style-type: none"> ・交流広場（キャンプ場、フランチングサイト（フランチングカー、コンテナ等）） ※非常時は広域的な防災拠点を想定 		8・9・10	19・26		
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場 ・木製アスレチック・遊具 		8・9・10	21・22		
	<ul style="list-style-type: none"> ・体験農園 ※民間事業として隣接地に確保することも検討 	2				
	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルステーション 			24	29	
	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロード（堤防） ・遊歩道（堤防） 			23・25	29	
	<ul style="list-style-type: none"> ・足湯・湯 ・銭湯・シャワー 		8・9	25・26	27	
	<ul style="list-style-type: none"> ・木のシンボル 		8・9			
ものづくり振興	<ul style="list-style-type: none"> ・家具コンシェルジュカウンター ・什器の販売・レンタルスペース 		8・9・10・12・14			
	<ul style="list-style-type: none"> ・DIYスペース（ものづくりの楽しさを体感） ・木工・工芸体験教室（筑後七国の技術の魅力を体感） ・ものづくり創造ラボ（事業者向け商品開発ワークショップスペース） 	5・6	8・9・13・15・16・17・18			
水辺体験	<ul style="list-style-type: none"> ・展望デッキ ※眺望確保のため展望タワーも検討 		8・9		27・28	
	<ul style="list-style-type: none"> ・親水空間（河川敷、干潟） 	2			27・29	
	<ul style="list-style-type: none"> ・河川敷・宝島キャンプ場（河川敷・宝島） 	2			29	
	<ul style="list-style-type: none"> ・船着き場 ※非常時に防災船着き場として使用する 	2			31・32・33	
	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺学習・体験スペース 	2			29・30・31	
その他（道の駅・川の駅の基本機能など）	休憩	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場・駐輪場 		8・9		
		<ul style="list-style-type: none"> ・RVパーク ・バス停（佐賀空港からのアクセス確保） 				
		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ・パウダールーム ・授乳室 ・休憩スペース 		8・9		
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信スペース ※大川市だけではなく、広域の産業・観光情報を取り扱う ・観光コンシェルジュカウンター 	7	8・9・14		
		防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設 ※カフェ・レストラン等のスペースを活用 ・備蓄倉庫 ・太陽光発電施設、自家発電施設 ・防災学習・防災体験スペース 			
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘリポート ※非常時に駐車場の使用を検討 ・広域災害時の自衛隊等待機所 					30	

4.3 施設規模

導入機能	施設	施設規模		検討部会での意見	算出根拠		
		屋内	屋外				
飲食	<ul style="list-style-type: none"> レストラン カフェ ※思い出家具カフェ・レストランも兼ねる 	1,000 m ²	-	大川家具（ソファ、テーブル、イスなど）などを体感でき、ゆったりとした空間を演出しながら大川の特産物を使った四季折々の食事を楽しめる。イタリア料理等のオリジナルメニューをオリジナルの器で楽しむことができる。大川の思い出家具を修繕してカフェやレストランの什器として活用。大川家具のタンスをテーブルとして活用した立ち飲みスペースなど。市内外含めたビジネスマッチングや商談の場としてカフェやレストランの一部を貸出して、DXを導入し、会議室・オフィスとして活用。	NEXCO 設計要領（SA レストラン・フードコート）より算出した値を2倍。		
物販	<ul style="list-style-type: none"> 直売所（農水産物等の生鮮食品） 物産販売所（加工品も含む） クラフトショップ（テナントを想定） 	500 m ² テナント 100 m ²	-	筑後川流域や有明海沿岸地域などの広域の食材や加工品を集めた物販で大川市を始め、広域の特産物が見える。（季節変動はイベント広場のマルシェでカバー）自動運転の技術により、周辺道の駅との物資のやりとりなども可能。レストランで実際に使ったオリジナルの器等を購入することができる。	福岡県内の道の駅における農林水産直売所＋物産販売所の施設面積の平均値：515 m ² テナントスペース 100 m ² ×5か所		
交流	<ul style="list-style-type: none"> イベント広場 	-	1,000 m ²	大屋根付き広場（全天候型）で筑後川流域や有明海沿岸地域と連携したマルシェや市場などのイベント、季節にあわせたお祭りの実施。キッチンカーなど車両が乗り入れられる舗装。	福岡県内事例より、最大規模を想定。 都城市 mallmall 約 650 m ² ／福井駅ハピテラス 約 630 m ² ／博多駅大屋根イベントスペース 826 m ² 100 m ² /グループのスペースを70箇所確保。 通路を1,000 m確保。		
	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ場 ※非常時は広域的な防災拠点としての使用を想定 フランピングサイト（キャンピングカー、コンテナ等） 	-	8,000 m ²	大川家具を取り入れた屋外キャンプやキャンピングカー、コンテナでフランピングができるなど、身近で手軽にアウトドアが楽しめる。芝生舗装でイベントなどにも対応することができ、大型野外フェスなどの開催による賑わい創出。	木製アスレチックや季節に応じた遊具等の設置と通路などを想定。 木製遊具は常設1箇所、必要に応じてキャンプ場や河川敷に仮設置。 事例：干潟よか公園船形遊具約 150 m ² 100 m ² ×10スペース程度を想定。		
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊び場 木製アスレチック・遊具 	-	200 m ²	大川市ならではの木製アスレチックやプールなど、季節に応じた仮設遊び場で子どもが日中遊べる。			
	<ul style="list-style-type: none"> 体験農園 	-	(1,000 m ²) ※隣接地で確保することも検討	農業体験を実施し、収穫した作物をレストランで食べられる。「大川の駅」に食材を提供するため地元の生産者と協力して作物を耕す。			
	<ul style="list-style-type: none"> サイクルステーション サイクリングロード（堤防） 遊歩道（堤防） 	100 m ²	-	レンタサイクルの貸し出し。 堤防上に自転車道や歩道を設置し大野島と連携して島の環境や景色を楽しめる。	貸し出しカウンターと自転車置場を想定。 ※堤防上、河川敷を想定		
	<ul style="list-style-type: none"> 足湯・湯湯 銭湯・シャワー 木のシンボル 	350 m ²	-	足湯などで景色を楽しみながらくつろげる空間。シャワー・サウナを設置し、筑後川総合運動公園等との連携。 木を用いた施設のシンボル。（家具の形状や子供が登れるアスレチックなどデザインの工夫を施す）	銭湯・シャワー150 m ² ×男女、足湯・湯湯 50 m ² 程度を想定。 ※展望デッキ上に設置		
	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりコンシェルジュ 什器の販売・レンタルスペース 	500 m ²	-	ものづくりコンシェルジュ（事業者を案内）で施設内や市内店舗・観光地等への案内を受けられ、レストランで実際に使った家具等の購入又はレンタルができたり、筑後七国や環有明海地域のものづくりに関するイベントや商品など様々な情報を得られる。	コンシェルジュカウンターと購入・レンタル手続きカウンター（100 m ² ） そのほか、地域のものづくり等や観光情報が展示案内しているほか、周辺自治体 PR ブースや出店スペース等（400 m ² ）		
ものづくり振興	<ul style="list-style-type: none"> DIY スペース 木工体験教室 ものづくり創造ラボ 	500 m ²	-	レンタルして使える作業ブースで DIY から本格的な技術体験、ワークショップまで幅広く対応できる。併設して資材、廃材や中古家具・建具の販売など。	DIY レンタルブース約 25 m ² ×8ブース＝計 200 m ² 資材庫 100 m ² ものづくりワークショップスペース 200 m ²		
	<ul style="list-style-type: none"> 展望デッキ ※眺望確保のため展望タワーも検討 親水空間（河川敷、干潟） 	-	(3,000 m ²)	堤防高さでのデッキを整備し、筑後川及び昇開橋などの景色を楽しみながら大川家具（ソファやこたつなどを配置）で憩える屋外への暮らしの拡張。ドローンなども活用。 干潮時は水際まで降りられ、水辺環境を楽しめる。 潮干狩りなどの体験や子どもが安全に遊べる環境を整える。	※施設部分と堤防をつなぐデッキとして整備を想定。 ※河川敷を想定		
水辺体験	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷・宝島キャンプ（河川敷・宝島） 	-	-	河川敷、宝島をキャンプサイトとして活用。 仮設遊具の設置やイベント広場と連携したイベントにも活用。	※河川敷、宝島を想定		
	<ul style="list-style-type: none"> 船着き場 ※非常時に防災船着き場として使用する 水辺学習・体験スペース 	-	-	若津港や筑後川昇開橋、大川テラツツア方面との渡し船やエツ漁や有明海海苔収穫体験ツアー、筑後川大堰の通過体験ツアーの実施。 河川敷や干潟でプログラムを展開。	※河川敷を想定		
その他 （道の駅の 基本機能など）	休憩	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場・駐輪場 RVパーク バス停（佐賀空港からのアクセス確保） 	-	22,000 m ²	思いやり駐車場や屋根付き駐輪場などを備える。 ※イベント等利用に対応するための臨時駐車場の確保も別途検討 非常時はヘリポートとして活用することも検討。 キレイで清潔感のある広いトイレ。	NEXCO 設計要領（SA 駐車場）より算出した約 12,000 m ² を第一駐車場として施設と隣接させて確保する。それ以外の 10,000 m ² は第二駐車場として確保する。また、調整池等と兼ねることも今後検討する。 NEXCO 設計要領（SA トイレ）より算出。	
		<ul style="list-style-type: none"> トイレ・パウダールーム 授乳室 休憩スペース 	600 m ²	-	250 m ²	-	道路利用者のためのショップ、フードコート、仮眠スペース。 道路情報などの発信。 市内観光地や店舗だけでなく、連携している道の駅や周辺自治体などの観光案内を行う。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信スペース ※大川市だけではなく、広域の産業・観光情報を取り扱う 観光コンシェルジュ 	-	-	-		
	防災機能	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設 ※カフェ・レストラン等のスペースを活用 備蓄倉庫 自家発電施設 太陽光発電施設、自家発電施設 防災学習・防災体験スペース ヘリポート ※非常時に駐車場の使用を検討 広域災害時の自衛隊待機所 	200 m ²	-	防災上の位置づけに応じて、備蓄庫や発電装置。 地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設として、カフェ・レストラン等一部機能を2階以上に配置する。 ※地域住民・道路利用者等の一時避難・受入施設として浸水を防げる場所を確保するため、堤防機能の強化や盛土・高層施設整備については次年度以降引き続き検討する	非常食などの倉庫を想定。 ※展望デッキと兼用	
合計		4,100 m ²	31,200 m ²				
共用部・外構部・通路等		1,558 m ²	3,120 m ²		共用部＝屋内面積×20% 外構部＝（屋内面積＋共用部）×15% 屋外面積×通路等 10%		
合計（共用部・外構部等を含む）		5,658 m ²	34,320 m ²				
			39,978 m ²				

※施設規模は、あくまで現段階での想定であり、今後の検討の中で変更することがあります。

4.4 配置計画

(1) 整備予定地

下記の考え方に基づいて、「大川の駅」の整備敷地を想定します。

■敷地形状の考え方

- 「大川の駅」の一体的な活用を重視し、なるべく北側に寄せた敷地とします。
- 大野島 IC からのアクセスを想定し、地盤高は道路面と同じ高さとします。

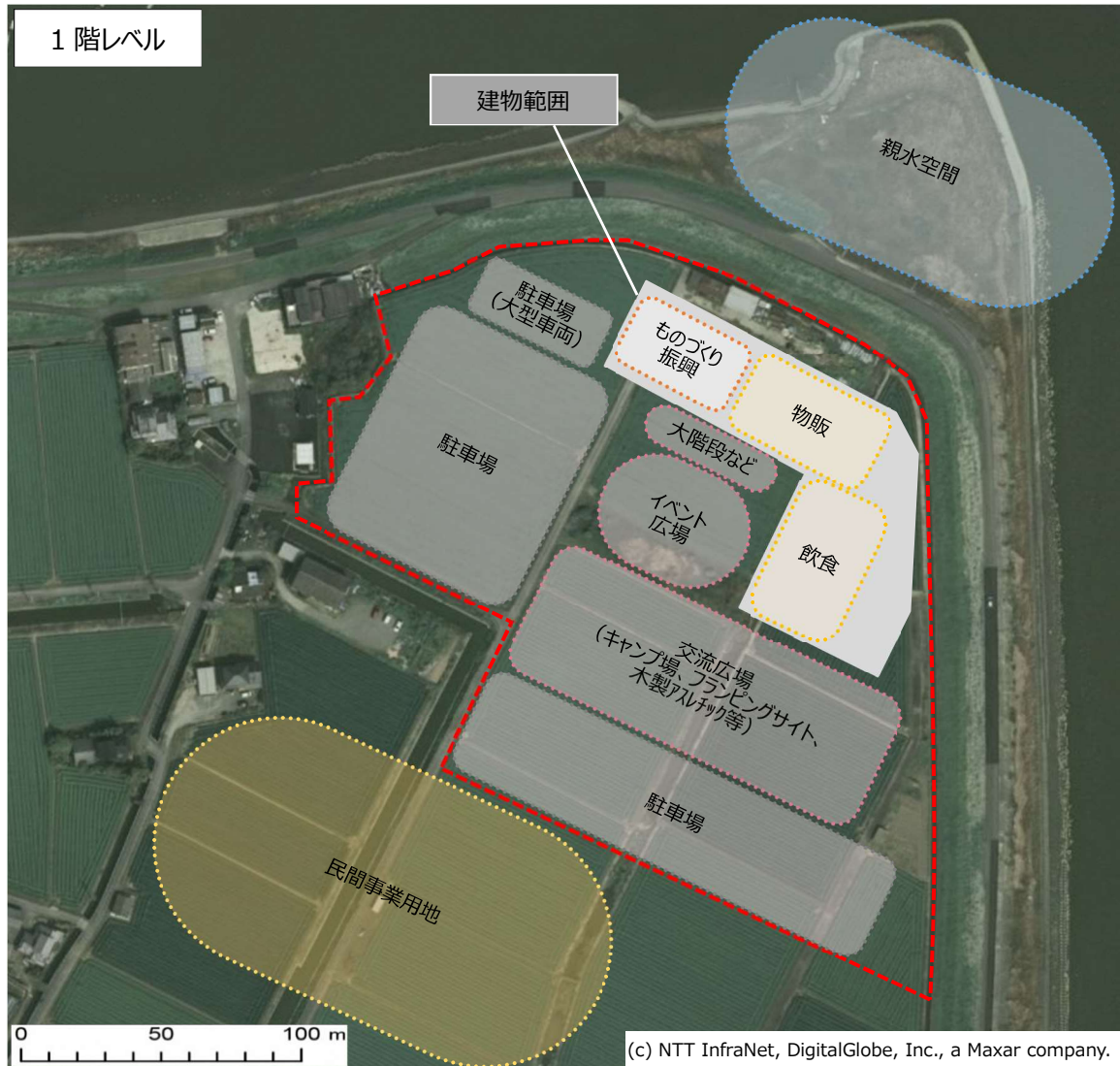


※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。

(2) 施設の配置計画

主要な機能を下記のように配置します。

▼配置イメージ（1階部分）

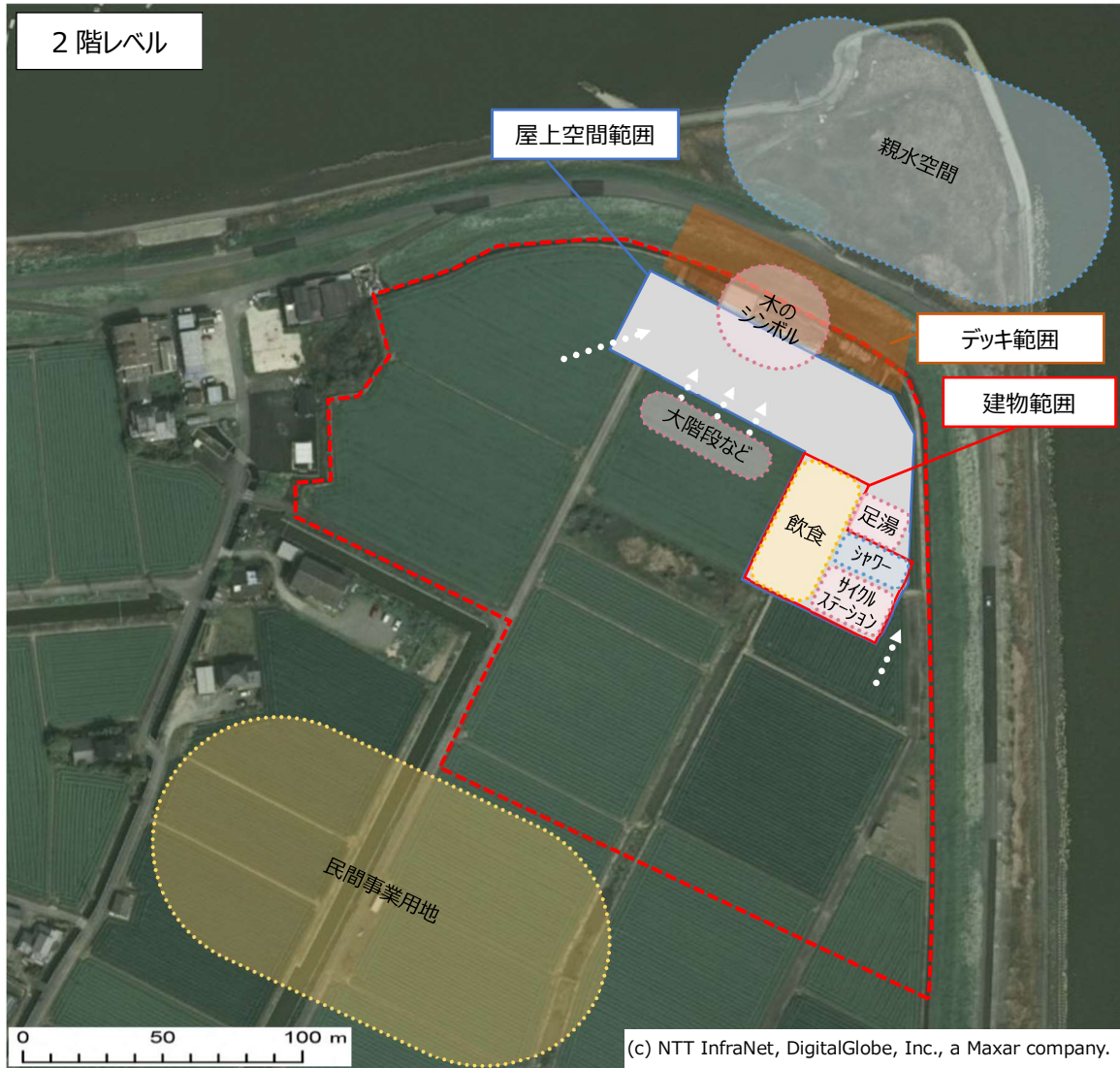


▼配置の考え方（1階部分）

項目	考え方
集客性	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車場と施設の主な集客機能（物販・飲食）は同じ高さレベルに配置する。 • 最も集客力の高い施設の正面・中央に、物販・飲食機能を配置する。
採光	<ul style="list-style-type: none"> • 集客、滞在に関連する機能（物販・飲食等）の採光を優先し、南面に窓を設置できる位置に配置する。
イベント広場	<ul style="list-style-type: none"> • イベント広場はイベント開催時には集客の目玉となり賑わい創出に資することや、物販や飲食など様々な機能との連携が想定されることから、なるべく敷地の中央に配置する。
子どもの遊び場	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの遊び場は、安全性を確保するため、駐車場からなるべく遠ざけた配置とする。
道路休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> • 道路休憩機能は駐車場の近くに配置する。
ものづくり産業 関連機能	<ul style="list-style-type: none"> • 家具コンシェルジュ、DIYスペースなどのものづくり産業に関連して連携が想定される機能を隣接して配置する。

※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。

▼配置イメージ（2階部分）



▼配置の考え方（2階部分）

項目	考え方
採光	<ul style="list-style-type: none"> 集客、滞在に関連する機能（物販・飲食等）の採光を優先し、南面に窓を設置できる位置に配置する。
眺望を楽しむ機能	<ul style="list-style-type: none"> 眺望を楽しみながら滞在してもらう機能（飲食、足湯）は堤防レベル以上に配置する。
堤防との連携が想定される機能	<ul style="list-style-type: none"> 遊歩道やサイクリングロード）など堤防との連携が想定される機能（サイクルステーション）は堤防レベルに配置する。
防災拠点施設	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難場所として機能するよう、備蓄倉庫、自家発電施設、太陽光発電など防災施設については浸水しないよう堤防レベル以上に配置する。
「大川の駅」の一体的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅と川の駅の一体感を創出するため、川の駅との連続性を確保する。

※図に示す機能はあくまで現段階での想定であり、規模や配置などは今後の検討の中で変更することがあります。

4.5 イメージパース

「大川の駅」のイメージパースを下記に示します。



※イメージパースは、あくまで現段階での想定であり、今後の検討の中で変更することがあります。

※施設のデザインは今後検討します。

5. 事業スケジュール

5.1 開業までのスケジュール

現時点で想定される開業までのスケジュールを示します。

R3年度から 整備に向けた計画・設計	整備着手から概ね5年で開業を目指す
-----------------------	-------------------

【道の駅】

計画作成	基本計画 運営手法検討	基本設計	実施設計	
用地	用地取得			
運営準備		事業者選定、運営計画策定		
建設工事			建設工事	

【川の駅】

計画作成	計画策定 社会実験	事業化	測量・設計	
かわまちづくり 支援制度 申請・登録		申請・登録		
建設工事			建設工事	

開業目標

5.2 今後の検討課題

- (1) 導入機能及び規模の精査
- (2) ゾーニング及び配置、動線計画の精査
- (3) 景観・意匠計画の検討
- (4) 事業手法の検討
- (5) 用地の取得範囲及び取得方法の検討
- (6) 造成整備の検討
- (7) インフラ施設の現状把握と整備検討
- (8) 国・県との調整（道の駅・川の駅）

「大川の駅」全体計画

発行：令和3年4月 福岡県大川市

〒831-8601 福岡県大川市大字酒見 256 番地 1

大川市ホームページアドレス <http://www.city.okawa.lg.jp/>

問い合わせ先 大川市企画課大川の駅推進室（電話 0944-85-5577）